

令和5年度大阪府 「子どもの生活に関する実態調査」 クロス集計結果について

大阪府内43市町村の調査結果について、下記の1～7の分野で抜粋したクロス集計結果の報告

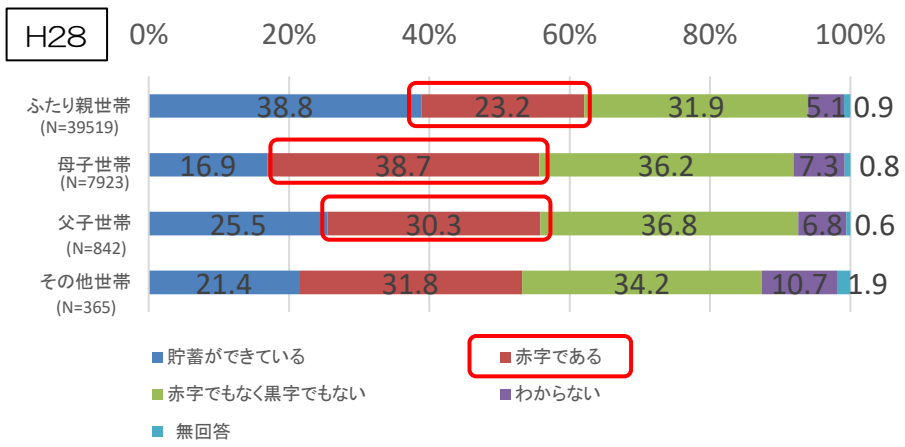
※H28データは、平成28年度実施「子どもの生活に関する実態調査」の大阪府内43市町村の結果

1. 家計・収入・就業に関すること
2. 食事に関すること
3. 子どもの教育環境に関すること
4. 子どものつながりに関すること
5. 親への相談支援に関すること
6. 居場所に関すること
7. お世話の状況に関すること

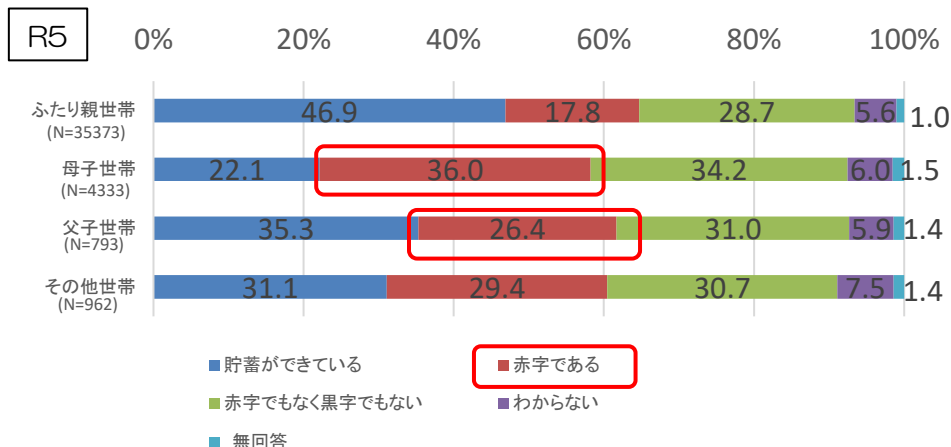
1. 家計・収入・就業に関すること

■調査結果から分かったこと

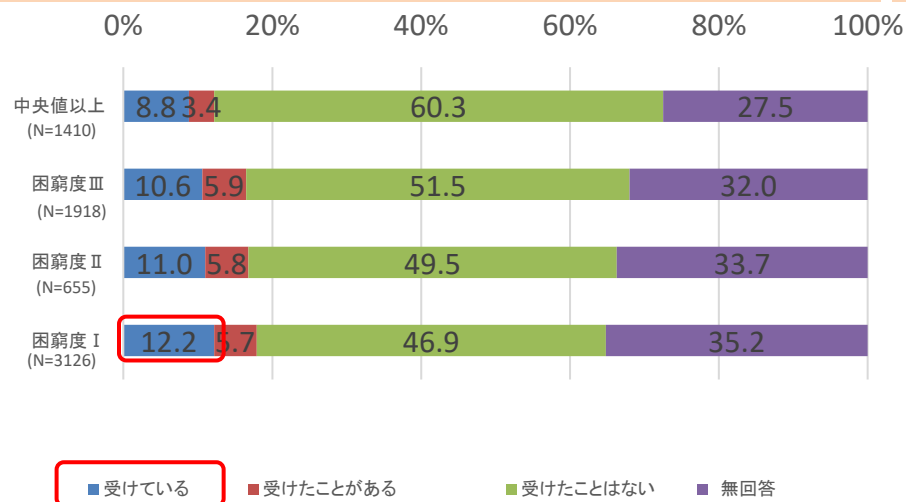
◇ひとり親世帯の概ね3分の1が赤字家計である。
(ふたり親世帯では約4分の1)



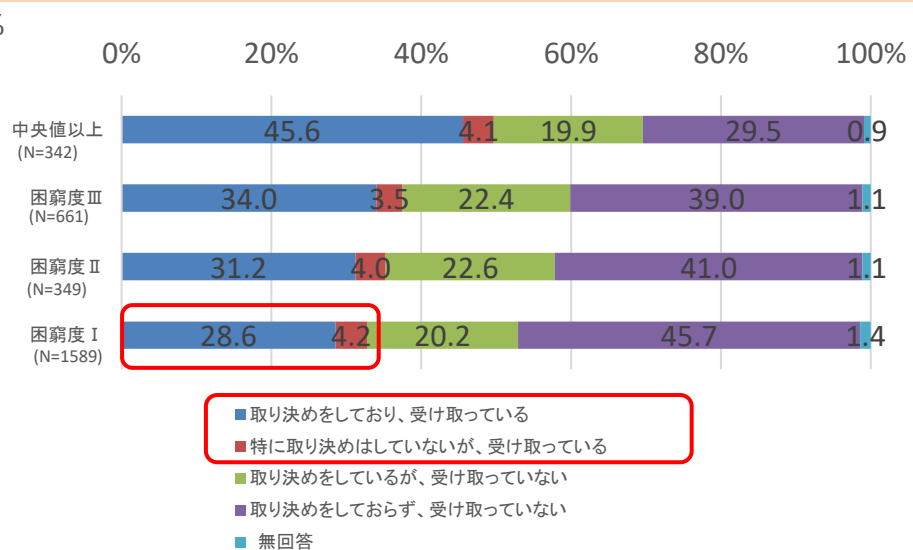
◇ひとり親世帯において、3割前後が赤字家計である。
特に母子世帯における赤字の割合が3割を超えている。



◇困窮度Ⅰのひとり親世帯で養育費を受けている割合は約1割である。



◇困窮度Ⅰのひとり親世帯で養育費を受け取っている世帯は約3割である。

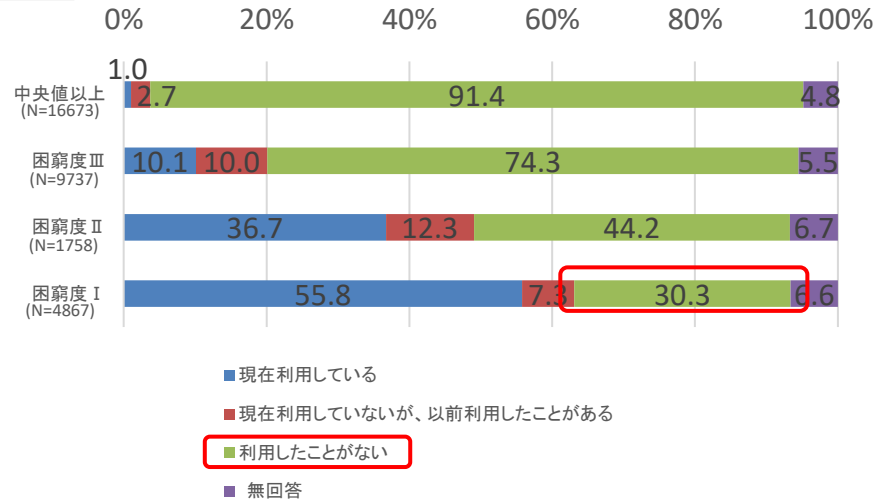
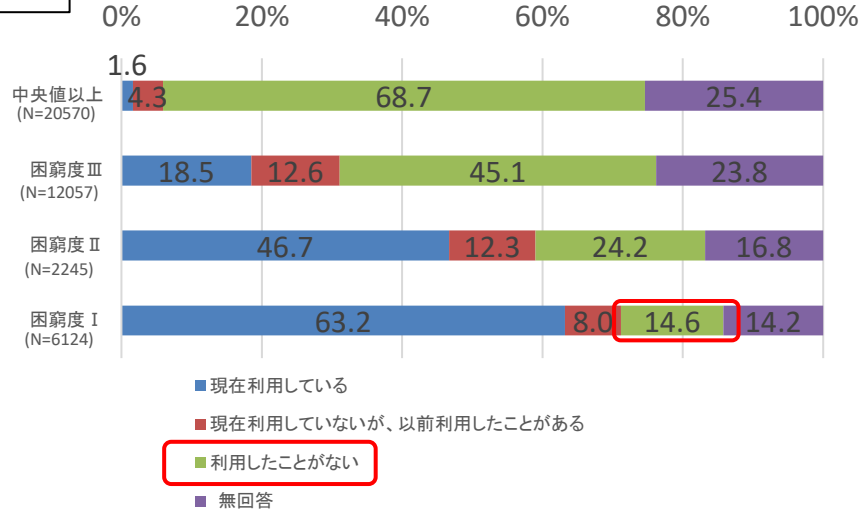


◇困窮度Ⅰの世帯で就学援助を利用したことがない世帯がある。

◇困窮度Ⅰの世帯で就学援助を利用したことがない世帯は約3割である。

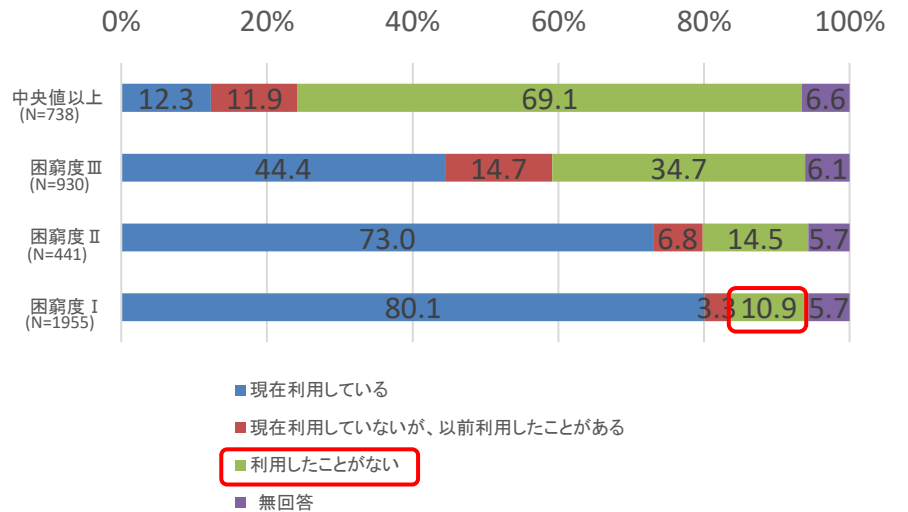
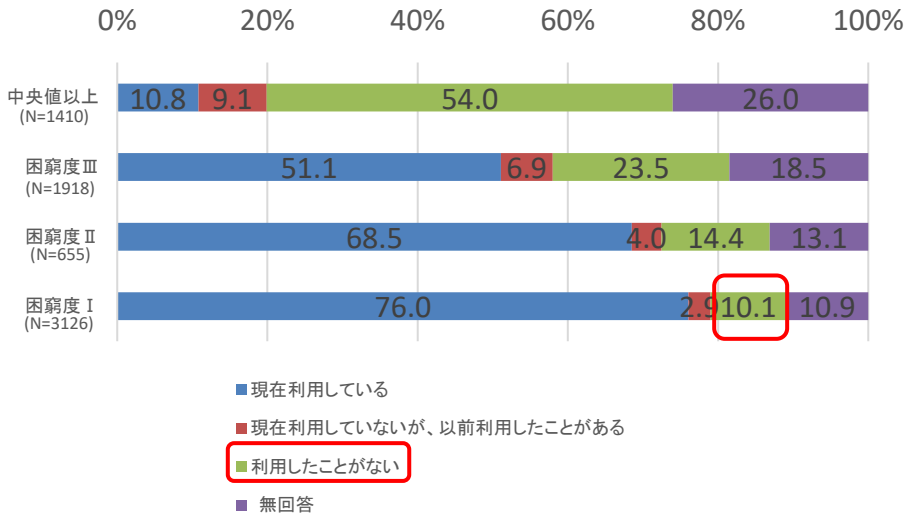
H28

R5



◇困窮度Ⅰのひとり親世帯で児童扶養手当を利用したことがない世帯がある。

◇困窮度Ⅰのひとり親世帯で児童扶養手当を利用したことがない世帯は約1割である。

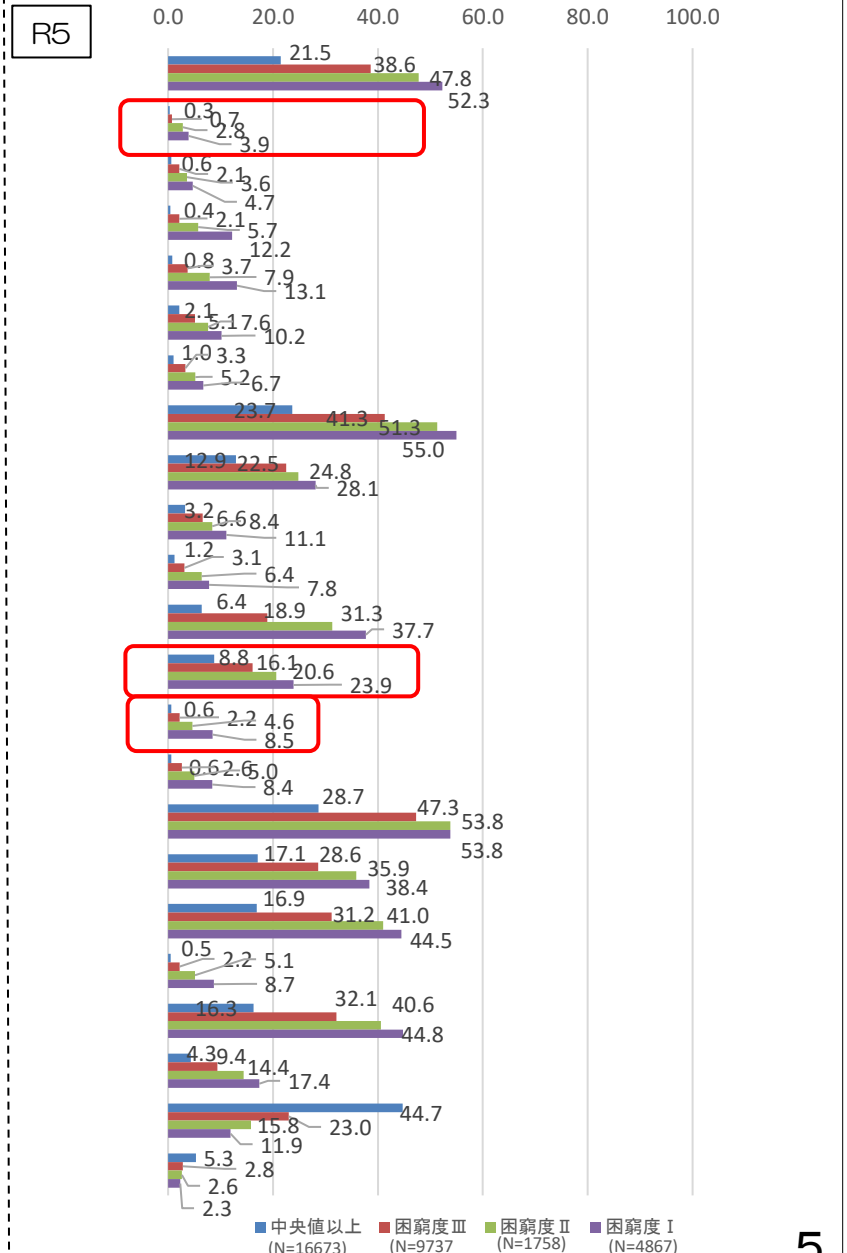
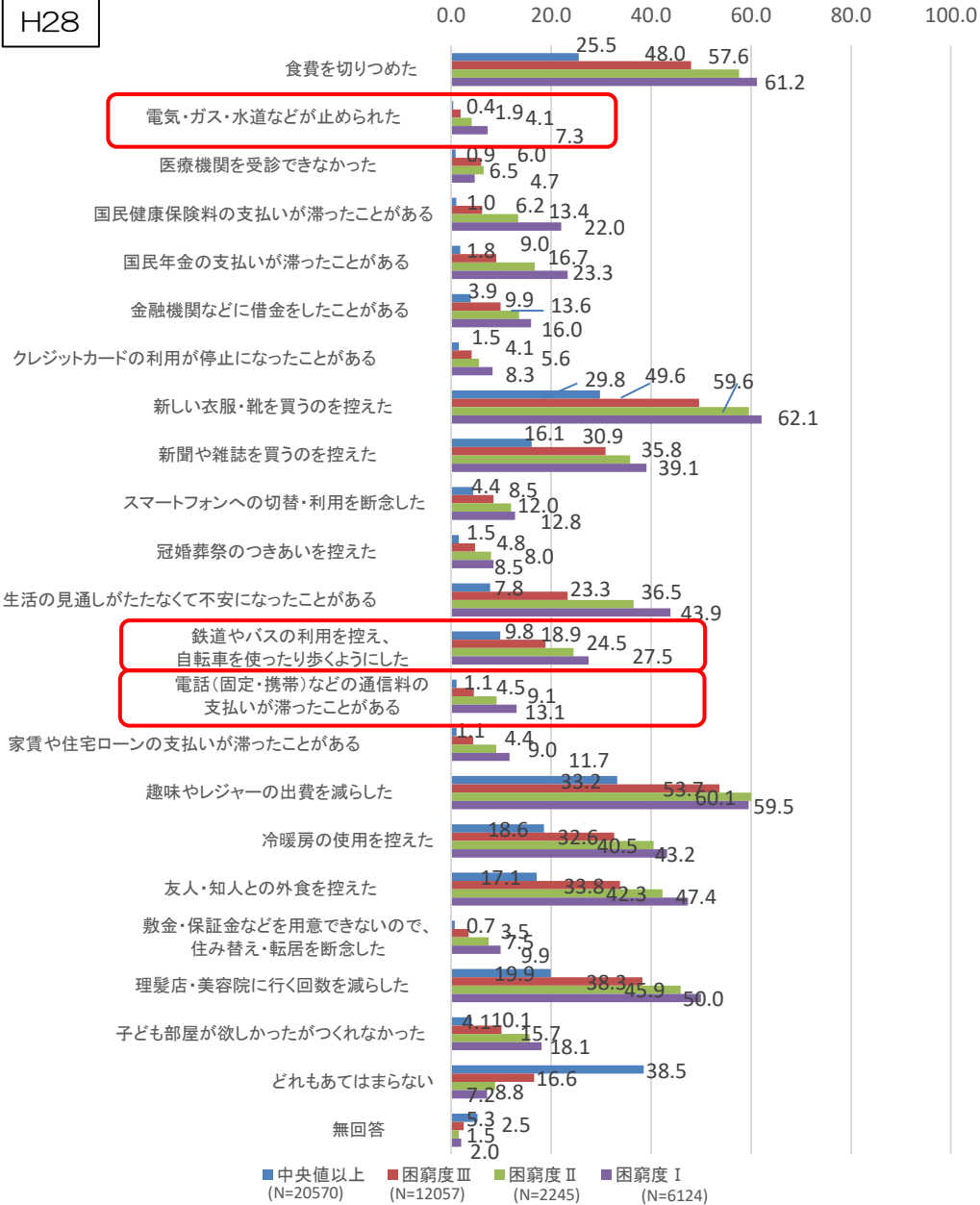


◇ 困窮世帯ほど、経済的にできなかったことが多い。

◇ 困窮世帯ほど、経済的にできなかったことが多い。

H28

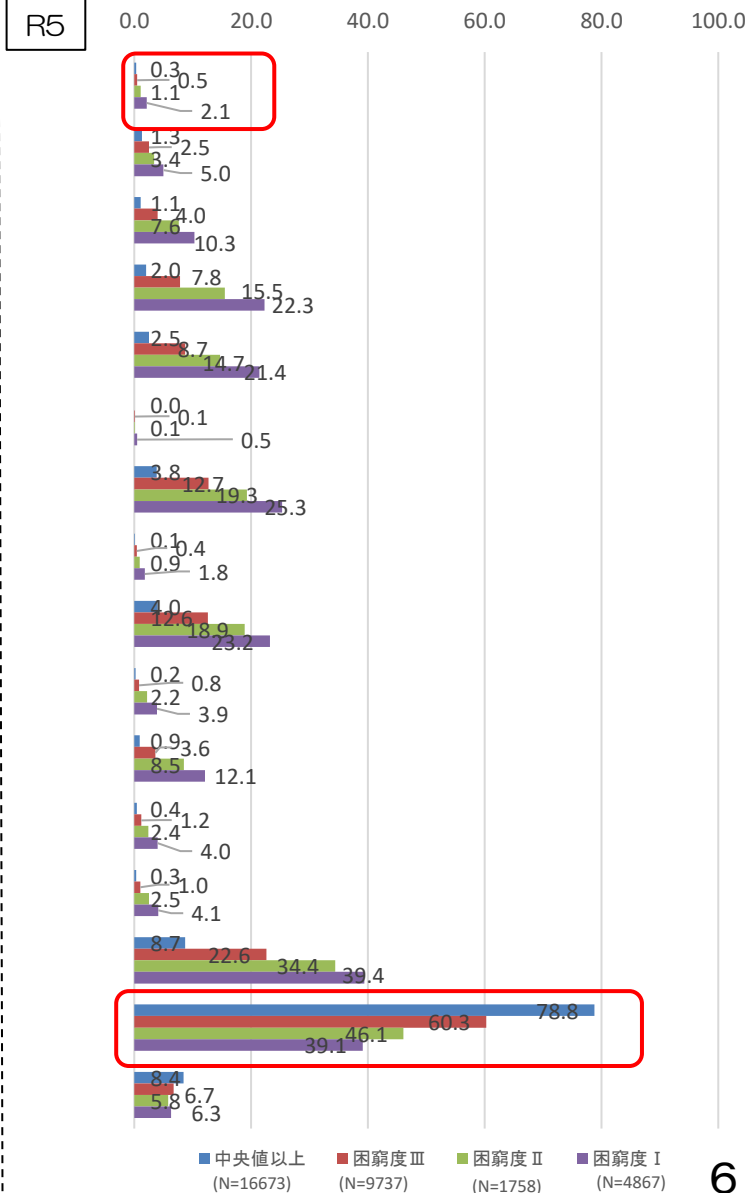
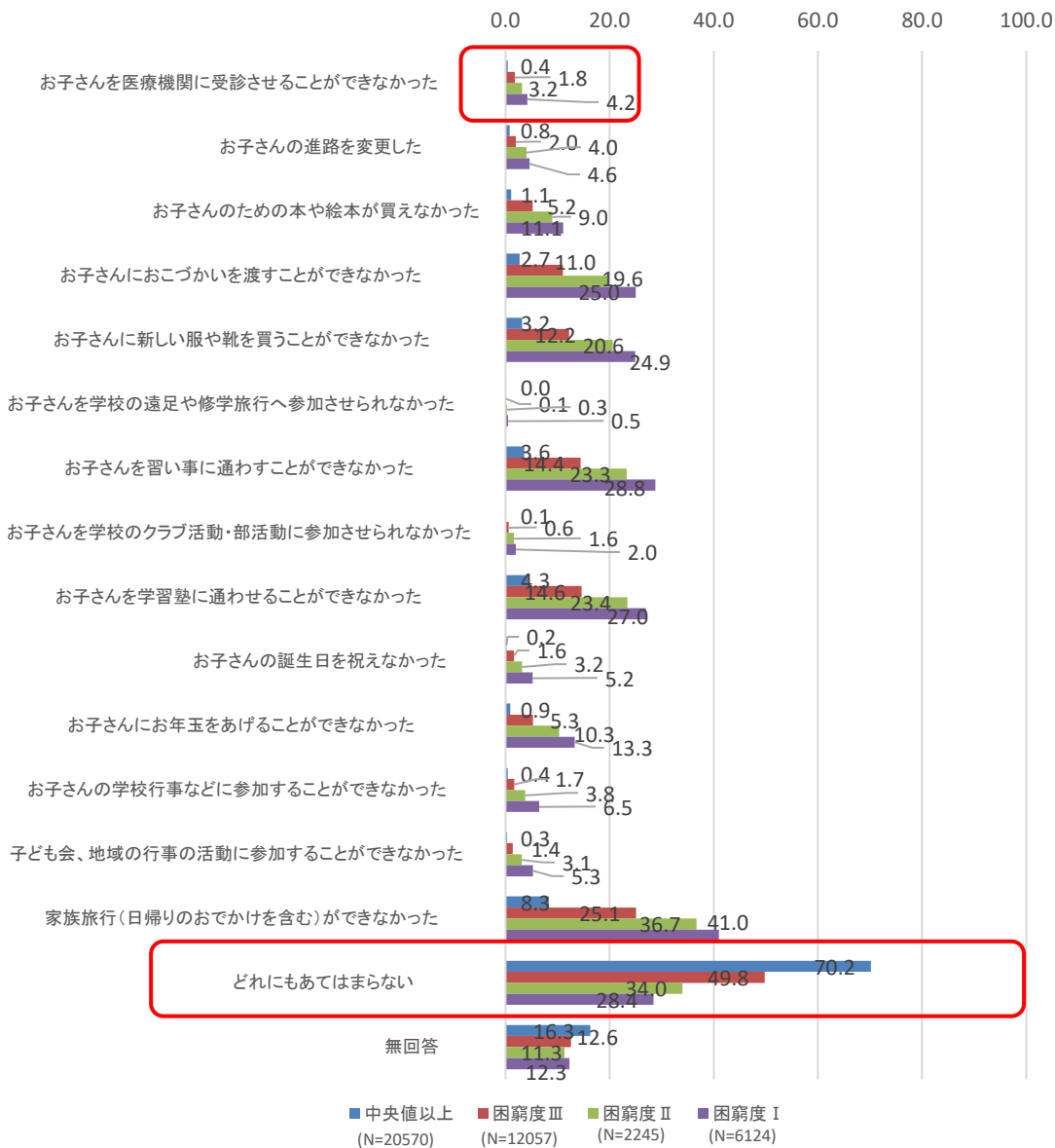
R5



◇困窮世帯ほど、子どもに対して経済的にできなかったことが多い。

H28

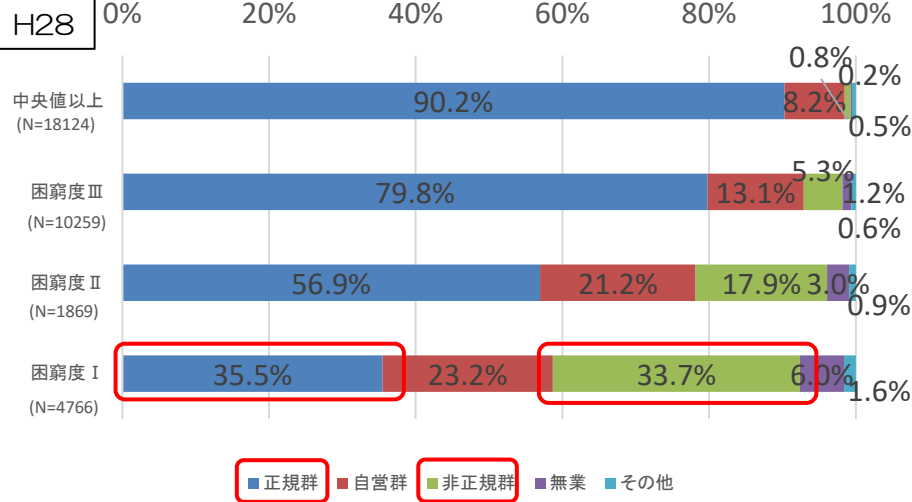
◇「子どもを医療機関に受診させることができなかった」と回答した困窮度Ⅰの割合が2.1%である。
 ◇「どれにも当てはまらない」回答した困窮度Ⅰの割合は約4割である。



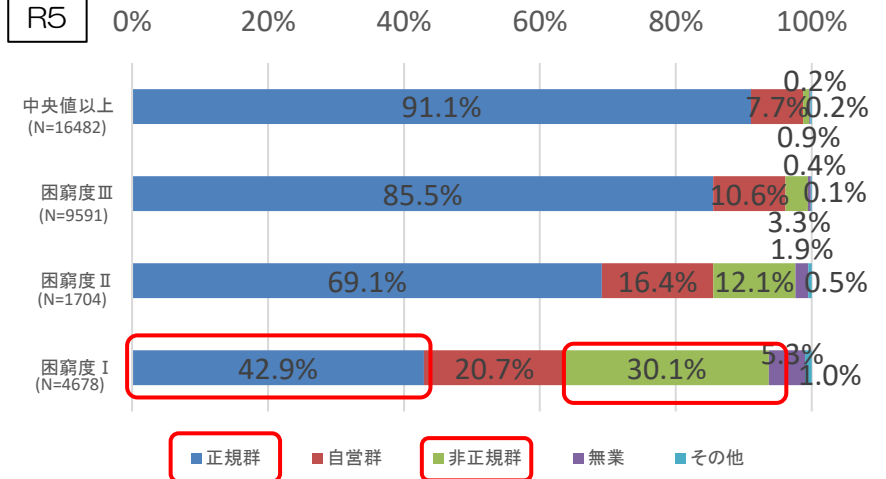
■調査結果から分かったこと

43市町村

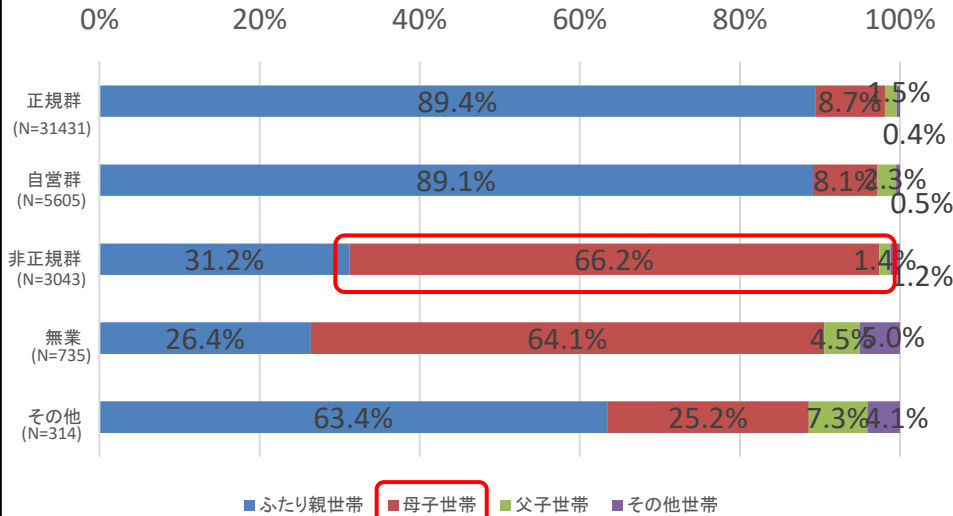
◇困窮度Ⅰの世帯における正規雇用の割合は約4割である。



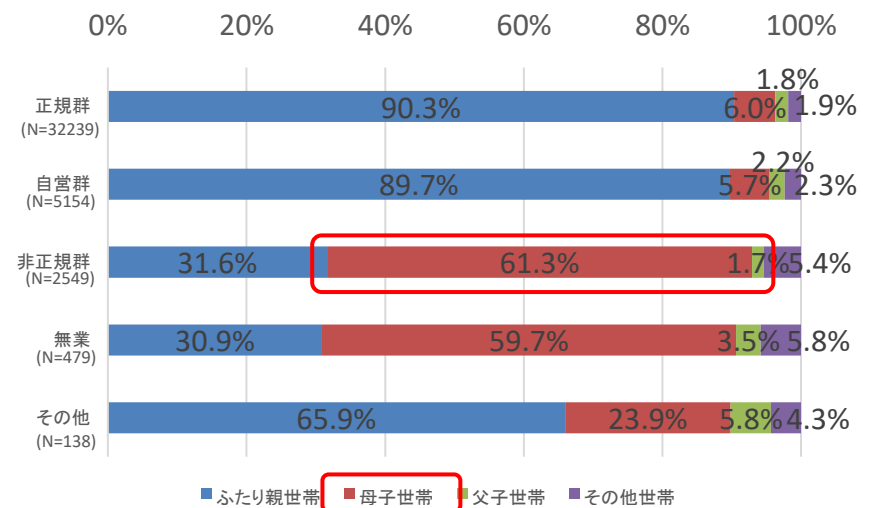
◇困窮度Ⅰの世帯における正規雇用の割合は4割を超えており、約3割が非正規雇用である。



◇非正規群に占める母子世帯の割合は約7割である。



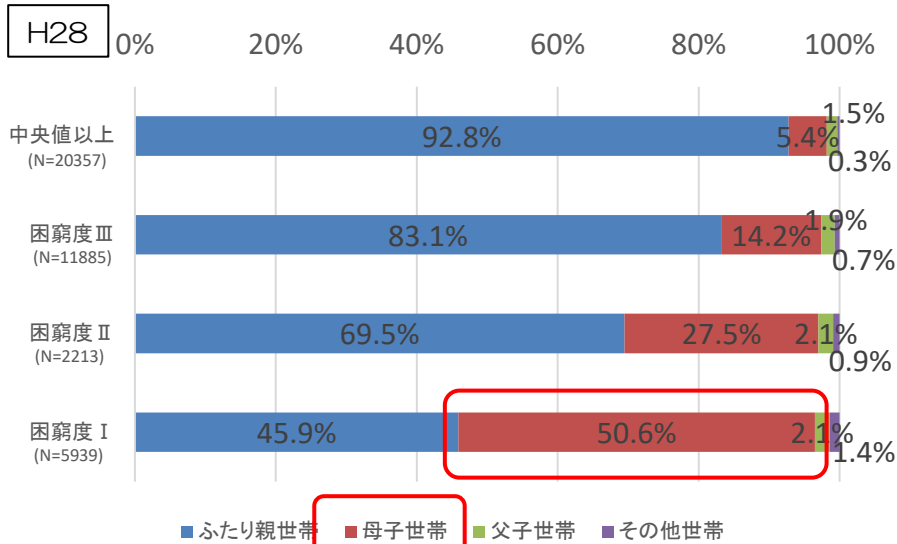
◇非正規群に占める母子世帯の割合は約6割である。



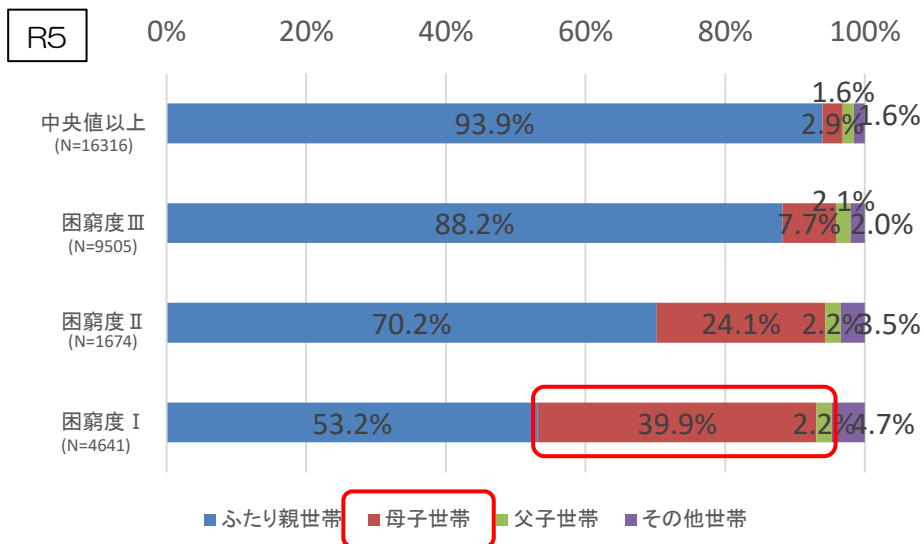
調査結果から分かったこと

43市町村

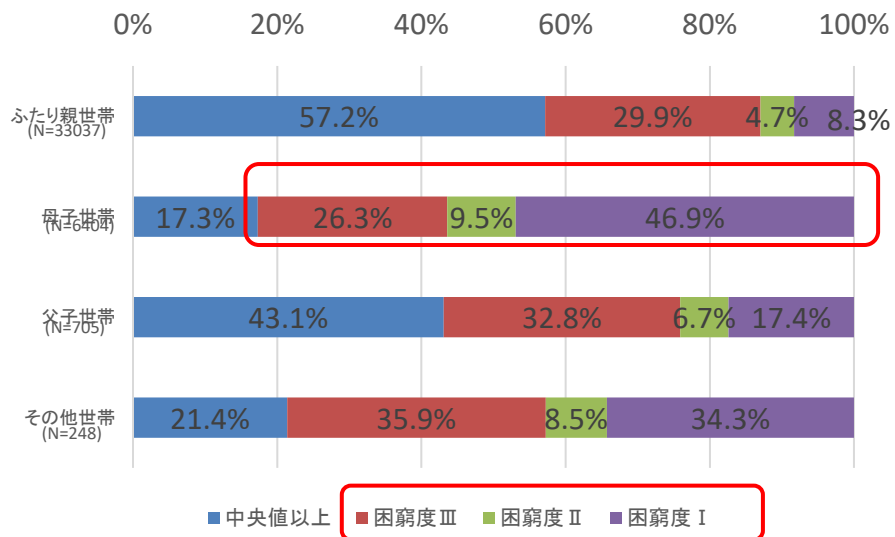
◇困窮度Ⅰの5割が母子世帯である。



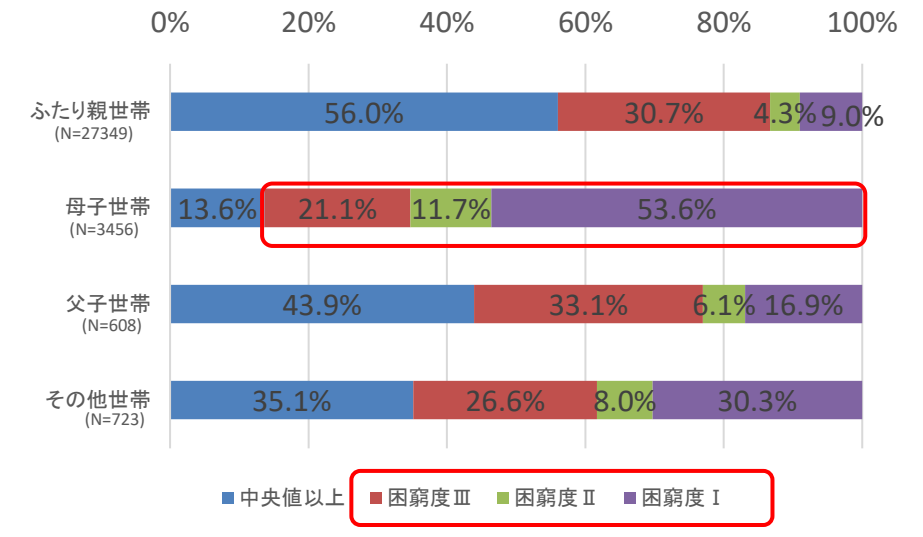
◇困窮度Ⅰにおける母子世帯の割合は約4割である。



◇母子世帯の約8割が等価可処分所得の中央値に満たない。



◇母子世帯で等価可処分所得の中央値に満たない世帯の割合は約8割である。

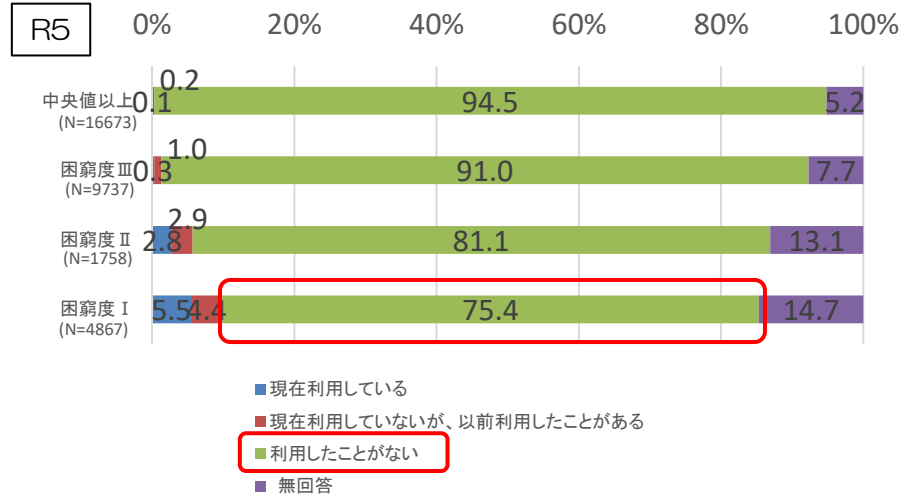
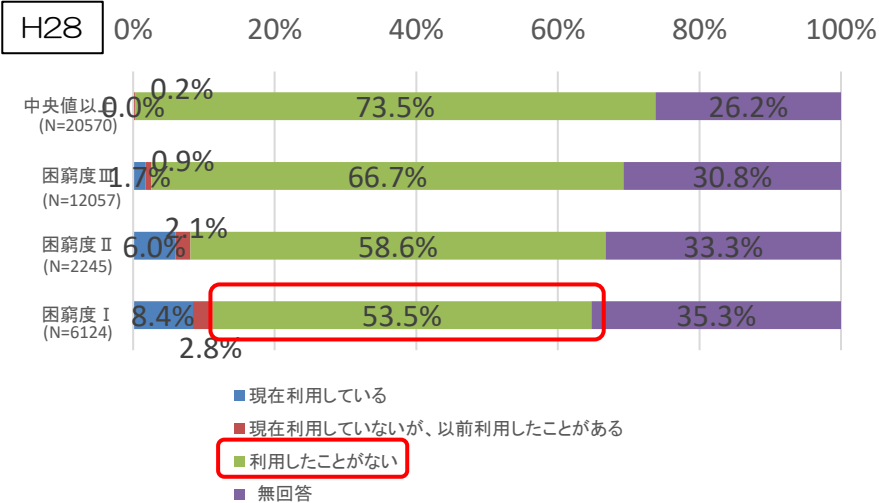


■調査結果から分かったこと

43市町村

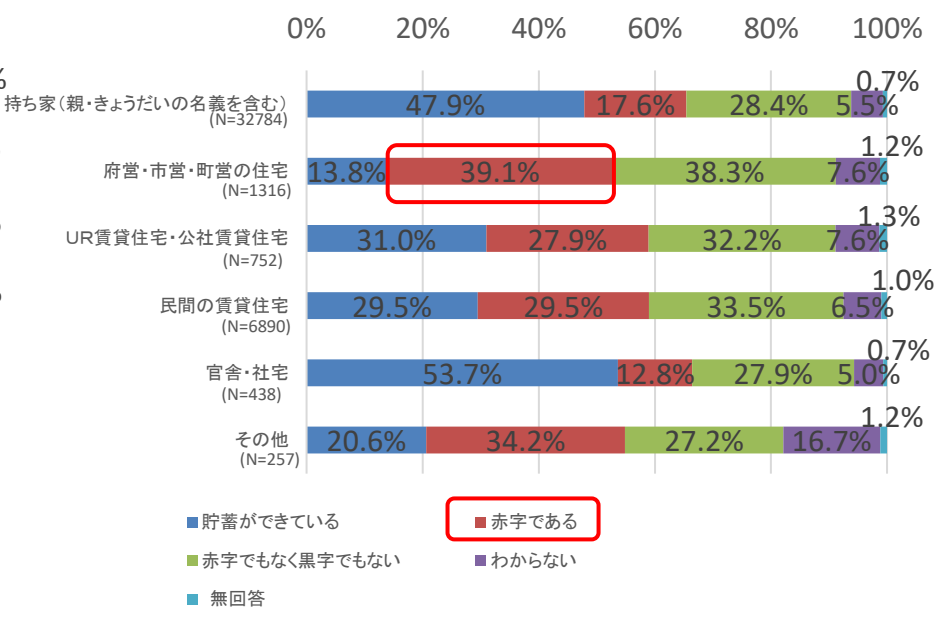
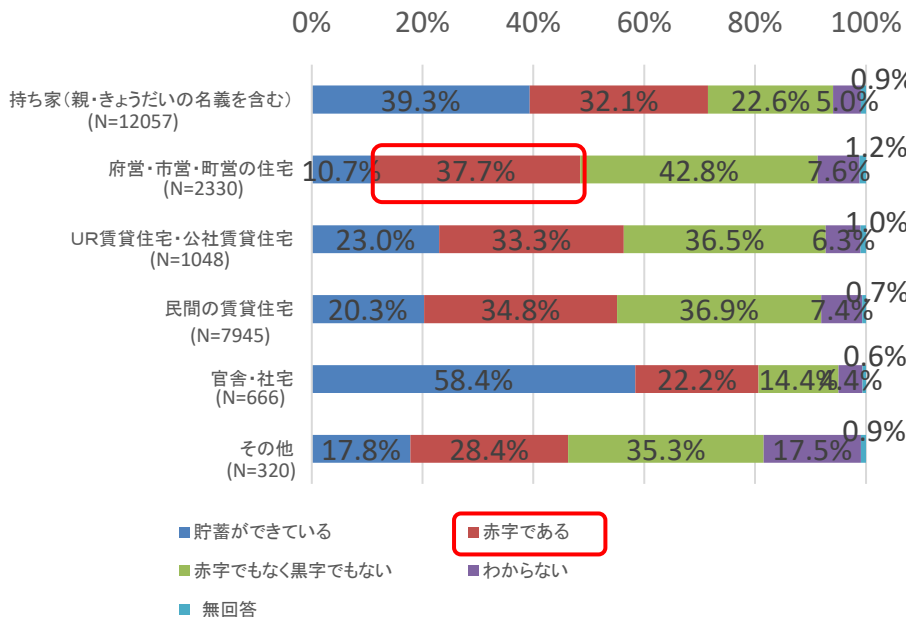
◇困窮度Ⅰの世帯で、生活保護制度を利用したことがない世帯は約5割である。

◇困窮度Ⅰの世帯で、生活保護制度を利用したことがない世帯は約8割である。



◇府営住宅や市営住宅等の世帯で、「赤字である」と回答した割合は約4割である。

◇府営住宅や市営住宅等の世帯で、「赤字である」と回答した割合は約4割であり、「貯蓄ができていない」割合は約1割である。



2. 食事に関すること

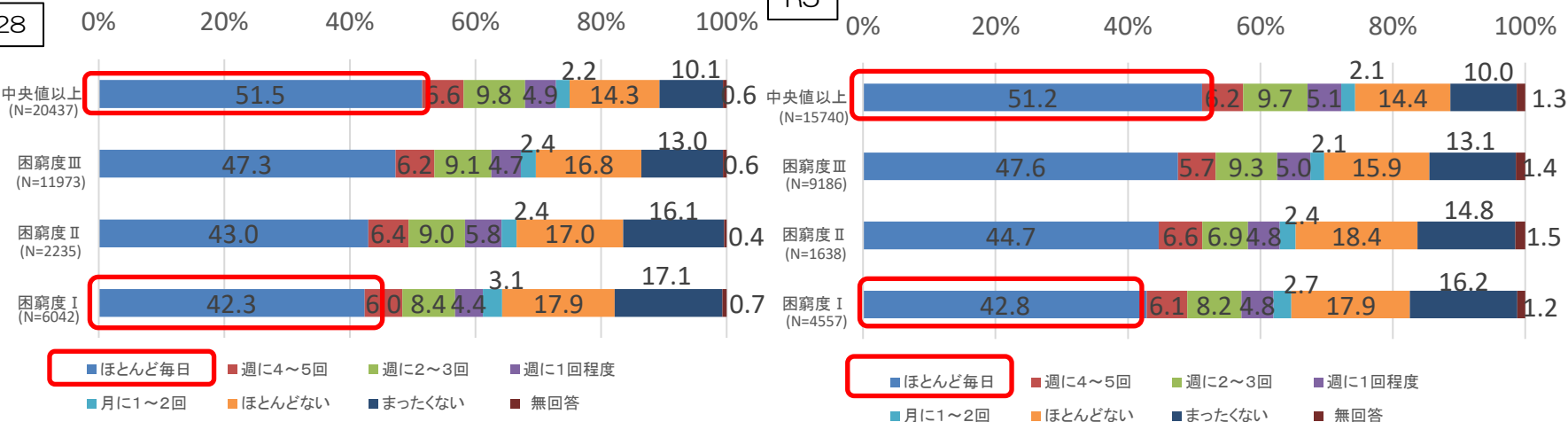
2. 食事に関すること

■調査結果から分かったこと

◇うちの大人のひとと一緒に朝食をほとんど毎日食べると回答した割合が中央値以上、困窮度Ⅲで約5割、困窮度Ⅰ及び困窮度Ⅱで約4割を超えている。

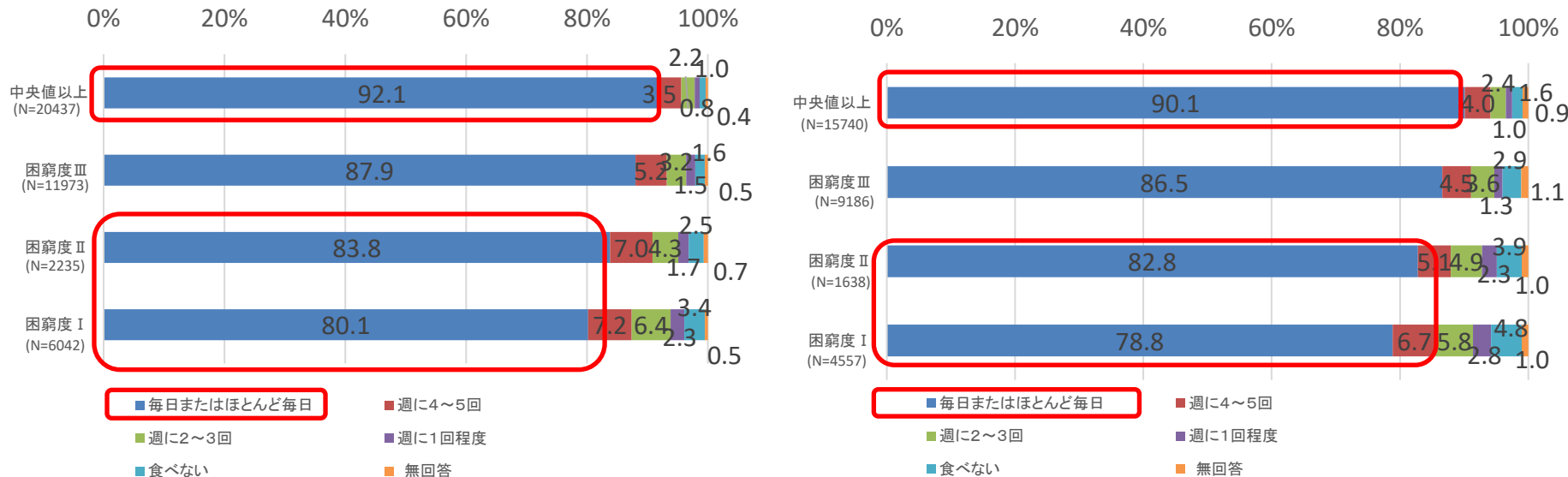
【朝食】

H28



◇「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べている割合は中央値以上及び困窮度Ⅲで約9割、困窮度Ⅰ及び困窮度Ⅱで約8割である。

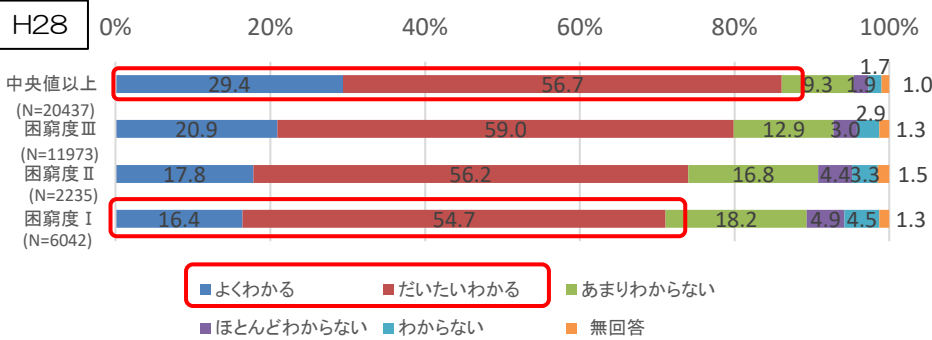
【朝食摂取状況】



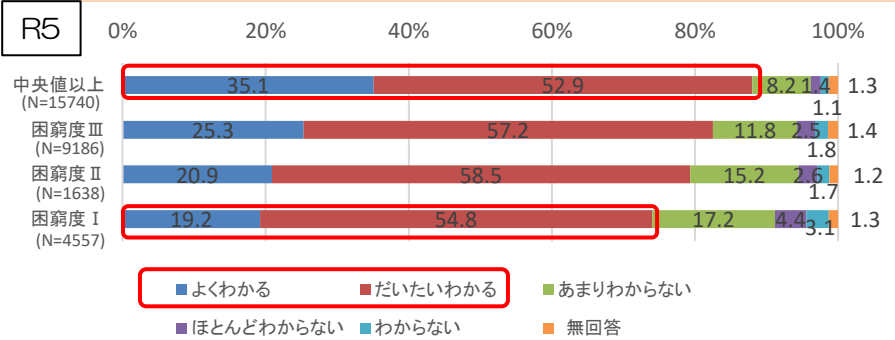
3. 子どもの教育環境に関すること

■調査結果から分かったこと

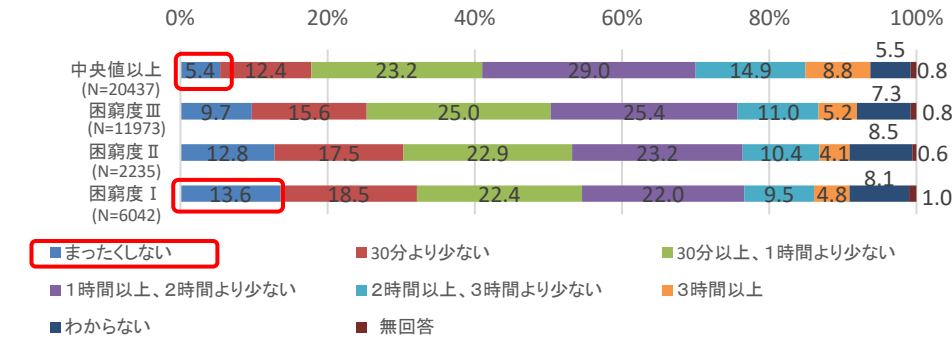
◇困窮世帯ほど学習理解度について「よくわかる」「だいたいわかる」の割合が低い。



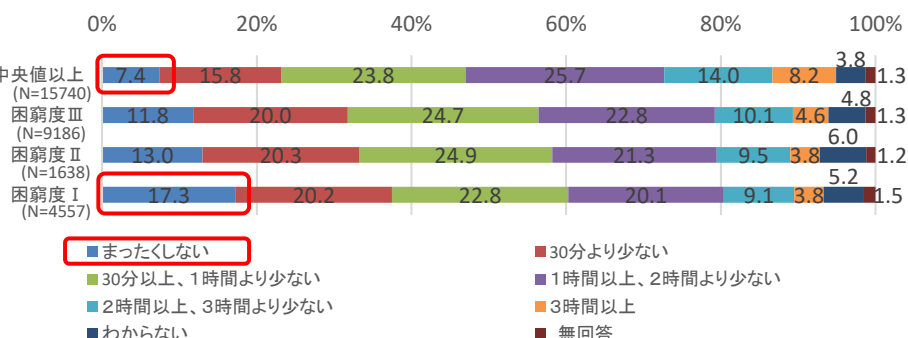
◇「よくわかる」と回答した割合は、中央値以上と困窮度Ⅰの世帯で約1割以上の差がある。



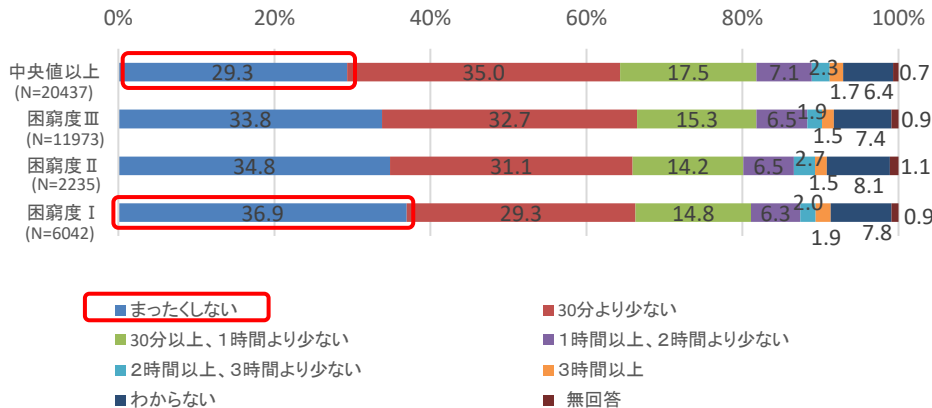
◇困窮世帯ほど授業時間以外の勉強時間について「まったくしない」の割合が高い。



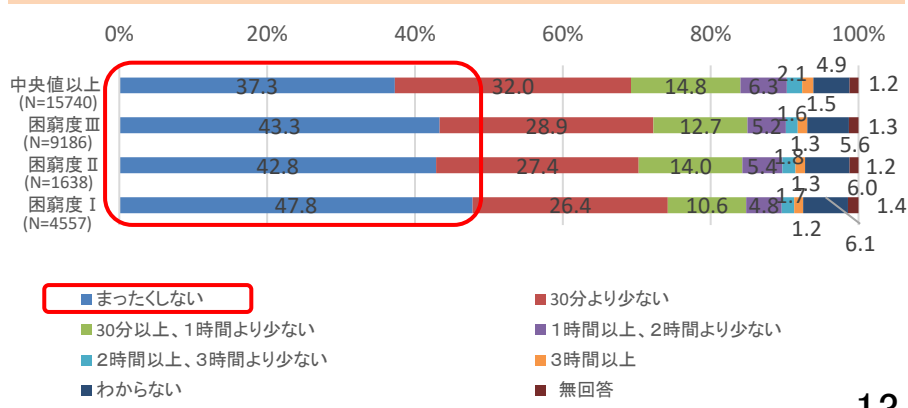
◇困窮度Ⅰの世帯において「まったくしない」は約2割である。



◇授業時間以外の読書について、困窮世帯ほど「まったくしない」の割合が高い。



◇読書を「まったくしない」割合は中央値以上、中央値未満のいずれの世帯においても約4割である。

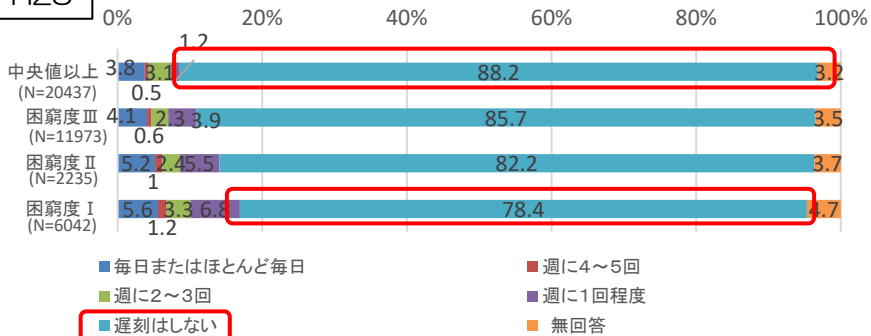


■調査結果から分かったこと

43市町村

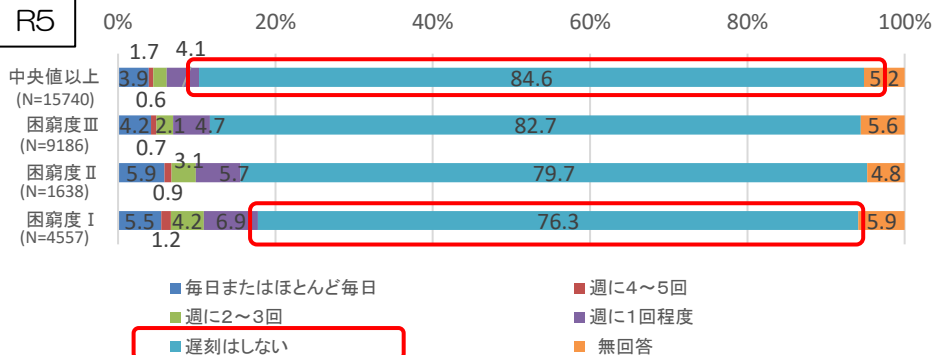
◇困窮世帯ほど遅刻する割合が高い。

H28

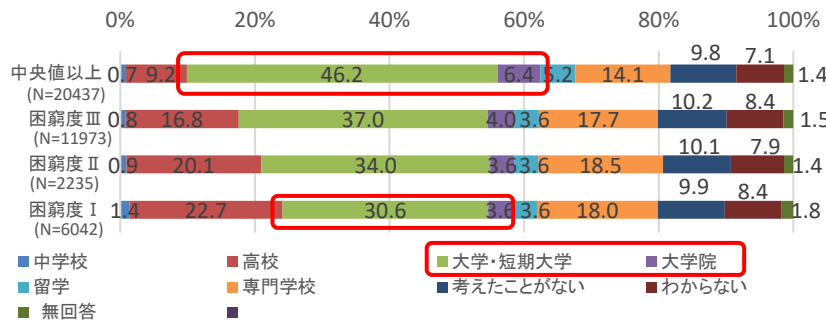


◇困窮世帯ほど遅刻する割合が高い。

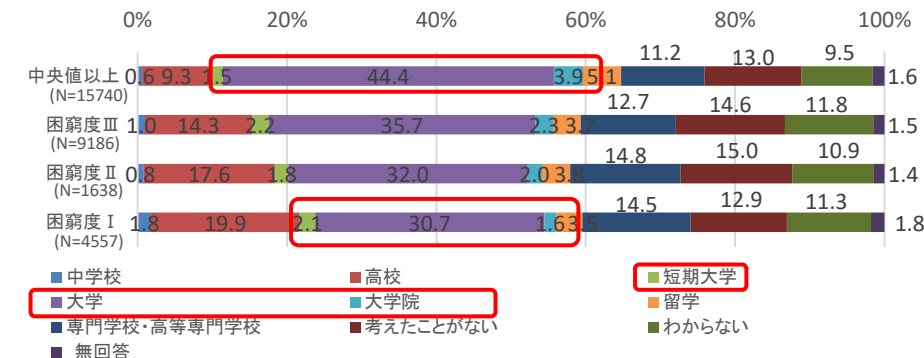
R5



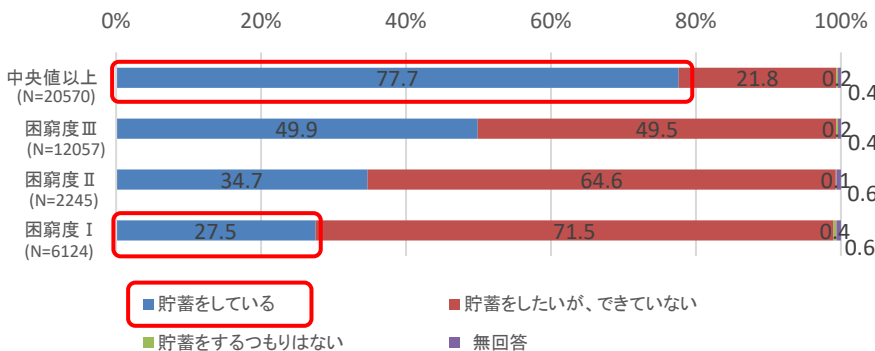
◇子ども自身の進学希望について、困窮世帯ほど「大学・短大・大学院」の割合は低い。



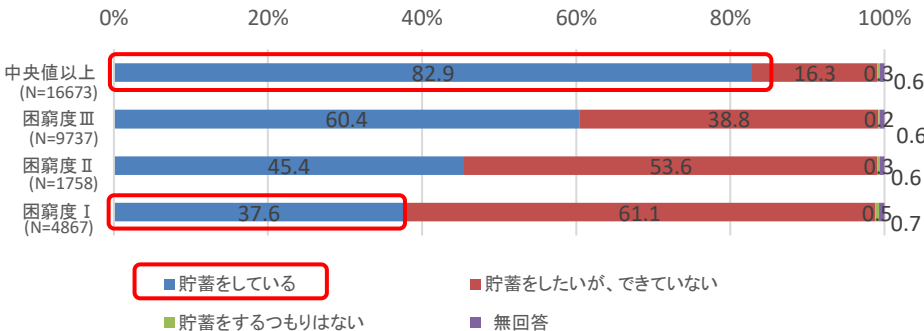
◇短期大学・大学・大学院を希望する困窮世帯の子どもの割合は約3割である。



◇困窮世帯ほど子どもの将来のための貯蓄ができていない



◇子どもの将来のために貯蓄している世帯は困窮度Ⅰにおいて約4割である。困窮度が高いほど、貯蓄はできていない。

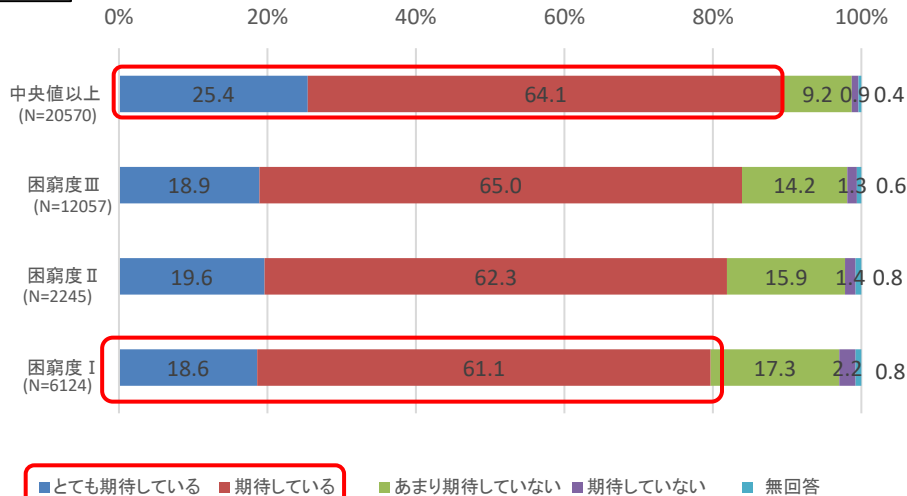


■調査結果から分かったこと

43市町村

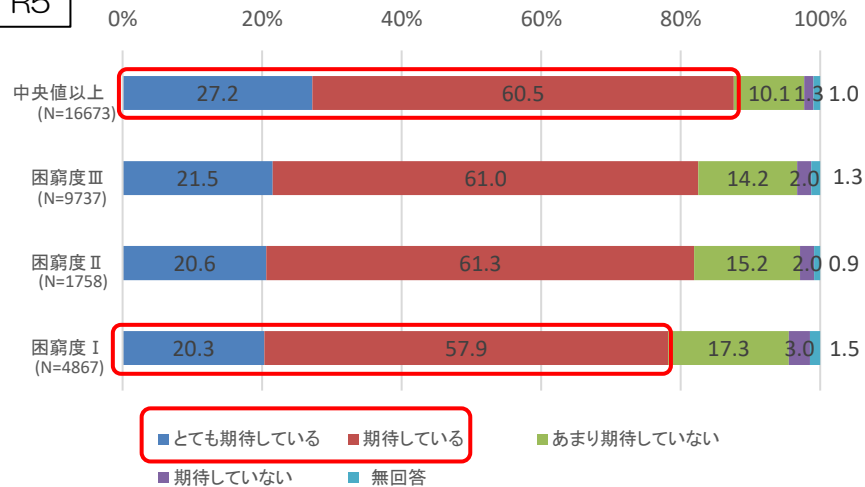
◇困窮世帯ほど子どもに対して「とても期待している」「期待している」割合が低い。

H28

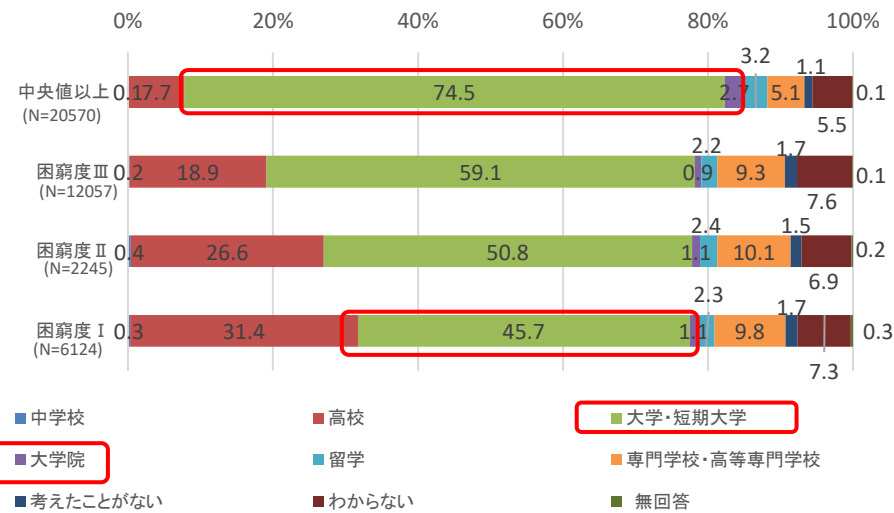


◇困窮度Ⅰの世帯では、子どもに「とても期待している」「期待している」の割合は約8割である。困窮世帯ほど期待する割合が低くなる傾向にある。

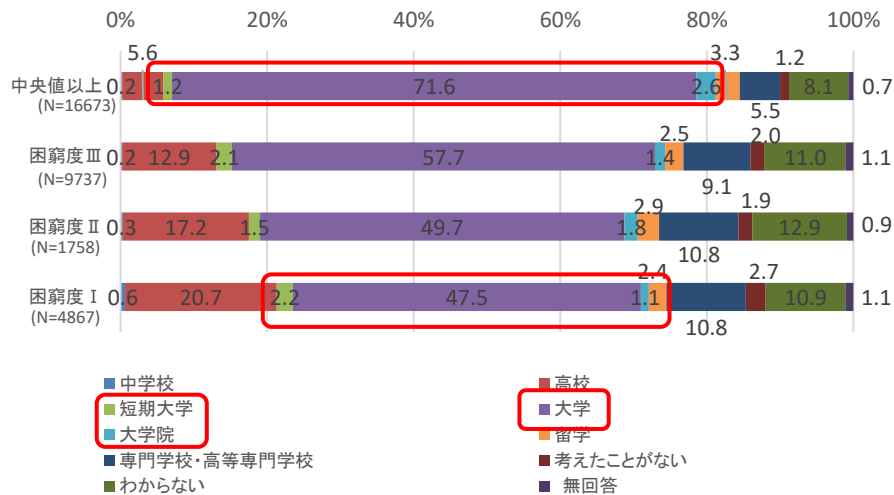
R5



◇保護者の子どもの進学希望について、困窮世帯ほど「短期大学・大学・大学院」の割合が低い。



◇困窮度Ⅰの世帯における「短期大学・大学・大学院」の進学希望割合は約5割である。



- ◇「同じ時刻に起きている」子どもの方が勉強時間が「30分以上、1時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」、「2時間以上、3時間より少ない」の割合が高い。
- ◇「1時間以上、2時間より少ない」の割合が約7割である。
- ◇「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもの方が「30分以上、1時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」、「2時間以上、3時間より少ない」の割合は約4割である。

※「起床時間」と「朝食の頻度」について、次の2つのグループに分け、「授業以外の勉強時間」とクロス集計を行った。

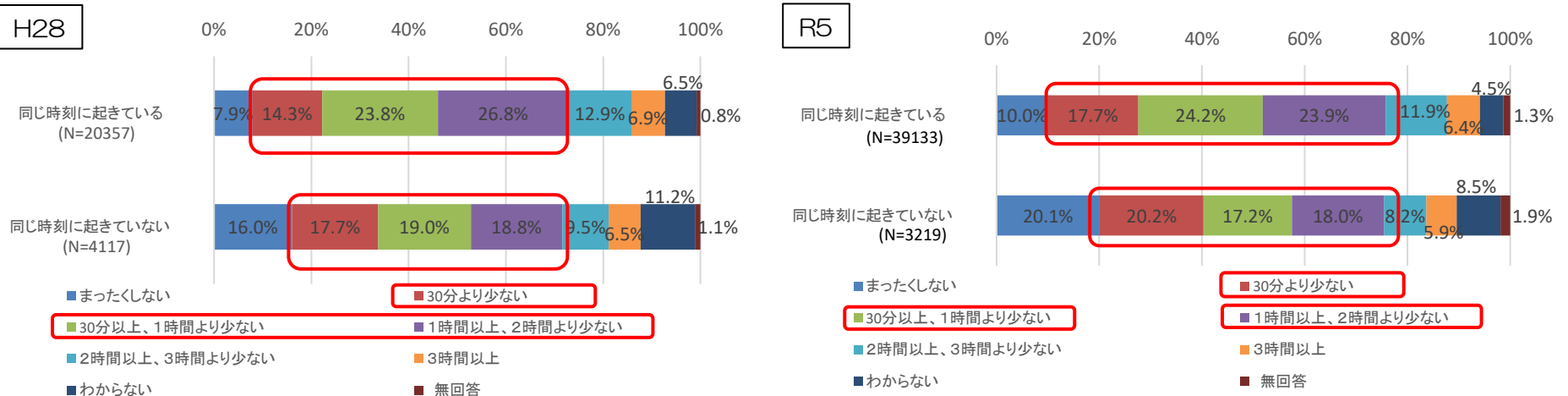
(起床時間) 『同じ時刻に起きている』:「起きている」「どちらかと言えば、起きている」と回答した子ども

『同じ時刻に起きていない』:「あまり、起きていない」「起きていない」と回答した子ども

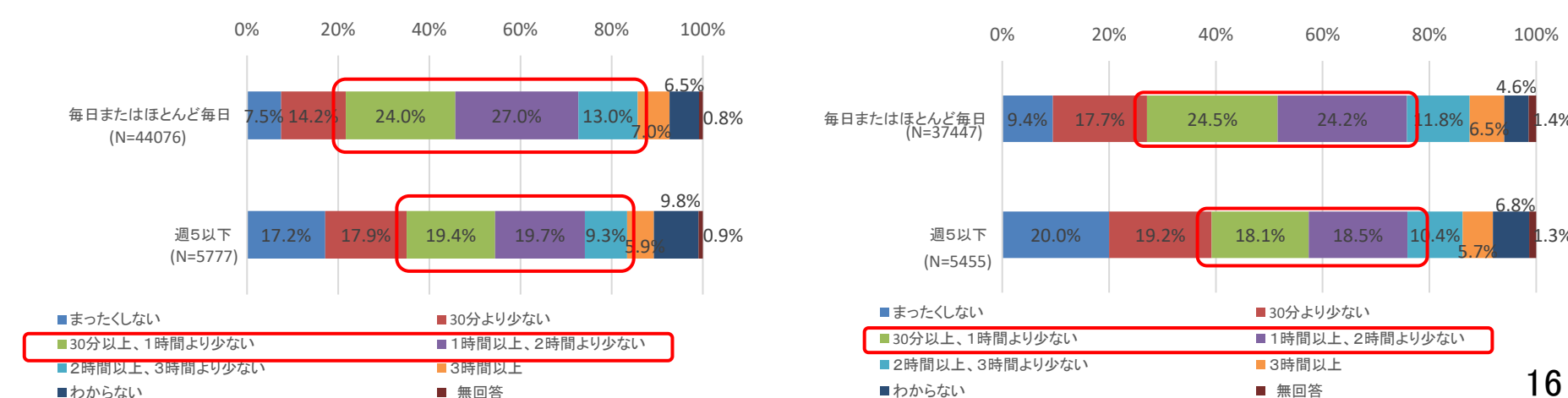
(朝食の頻度) 『毎日またはほとんど毎日』:「毎日またはほとんど毎日」

『週5回以下』:「毎日またはほとんど毎日」以外

起床時間と授業以外の勉強時間(学校がある日)の関係



朝食の摂取と授業以外の勉強時間(学校がある日)の関係

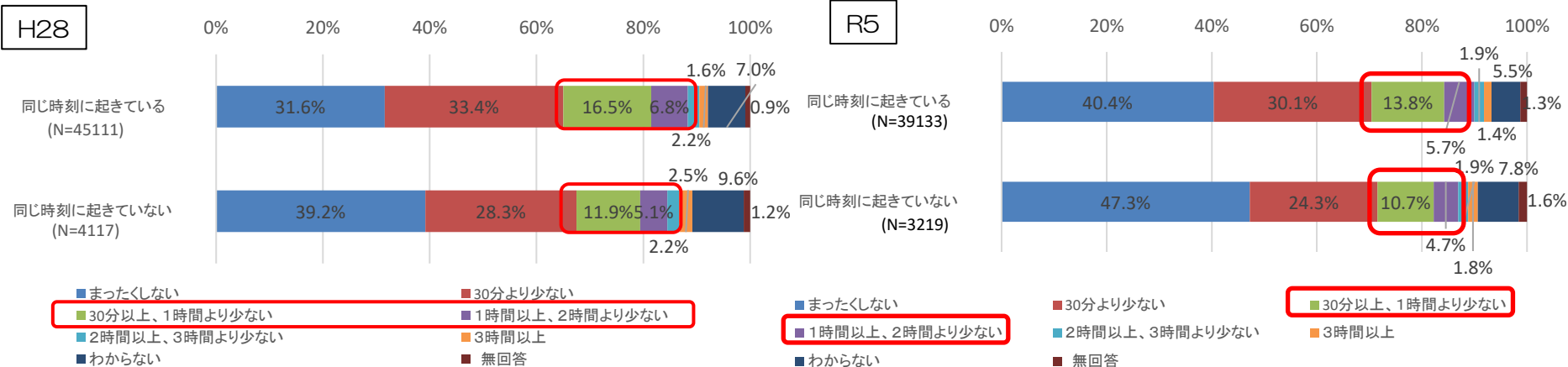


- ◇「同じ時刻に起きている」子どもの方が勉強時間が「30分以上、1時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」の割合は約2割である。
- ◇「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもの方が「30分以上、1時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」の割合は約2割である。

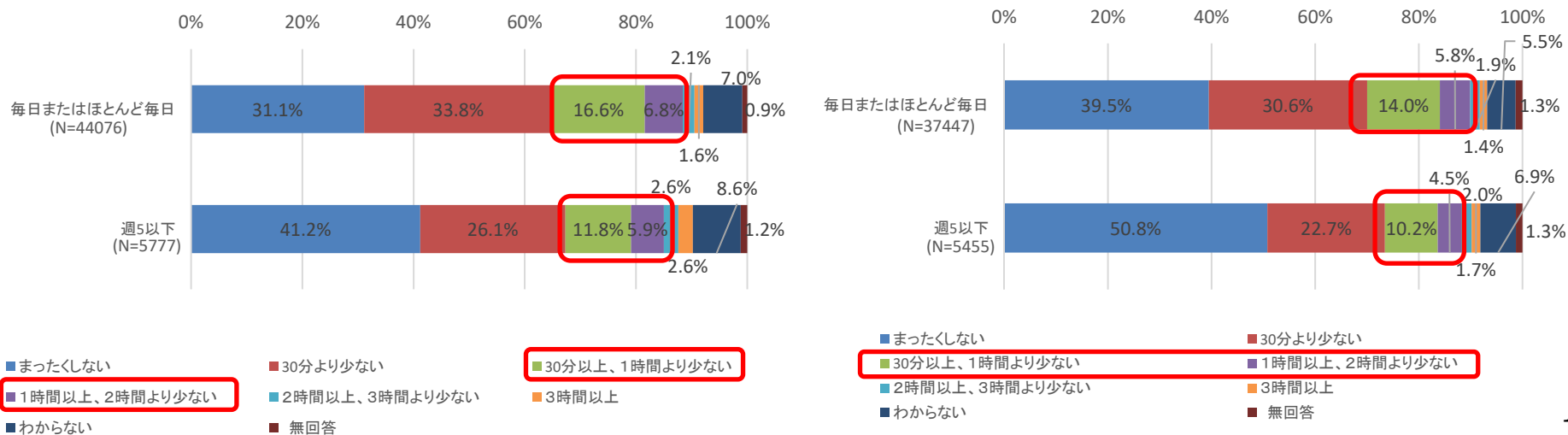
※「起床時間」と「朝食の頻度」について、次の2つのグループに分け、「授業以外の読書時間」とクロス集計を行った。

- (起床時間) 『同じ時刻に起きている』:「起きている」「どちらかと言えば、起きている」と回答した子ども
『同じ時刻に起きていない』:「あまり、起きていない」「起きていない」と回答した子ども
- (朝食の頻度) 『毎日またはほとんど毎日』:「毎日またはほとんど毎日」
『週5回以下』:「毎日またはほとんど毎日」以外

起床時間と授業以外の読書時間の関係



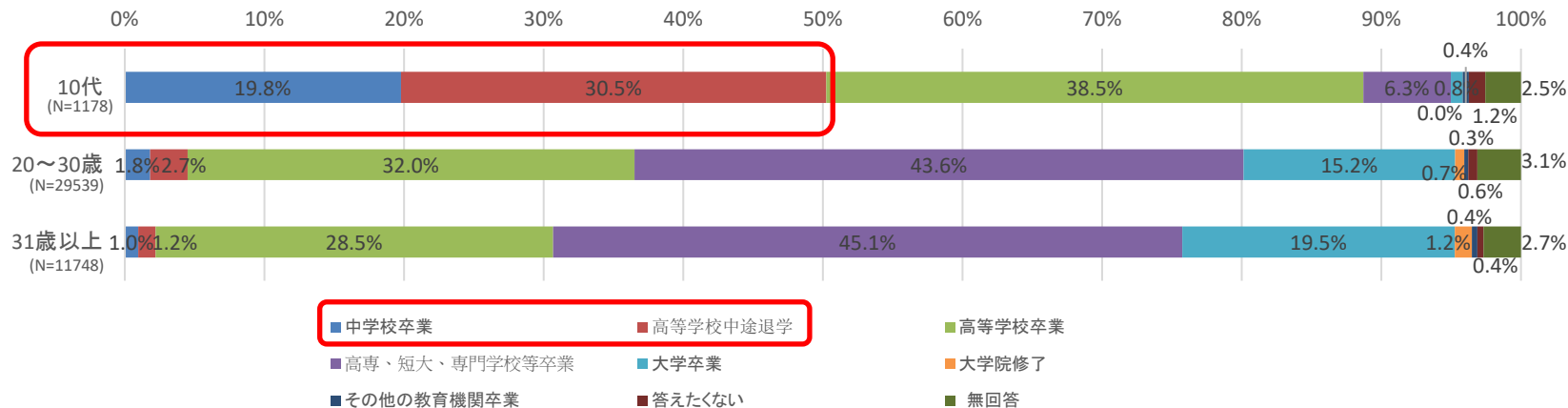
朝食の摂取と授業以外の読書時間の関係



◇10代で親になった世帯の最終学歴は中学校卒業や高等学校中途退学の割合が高い。

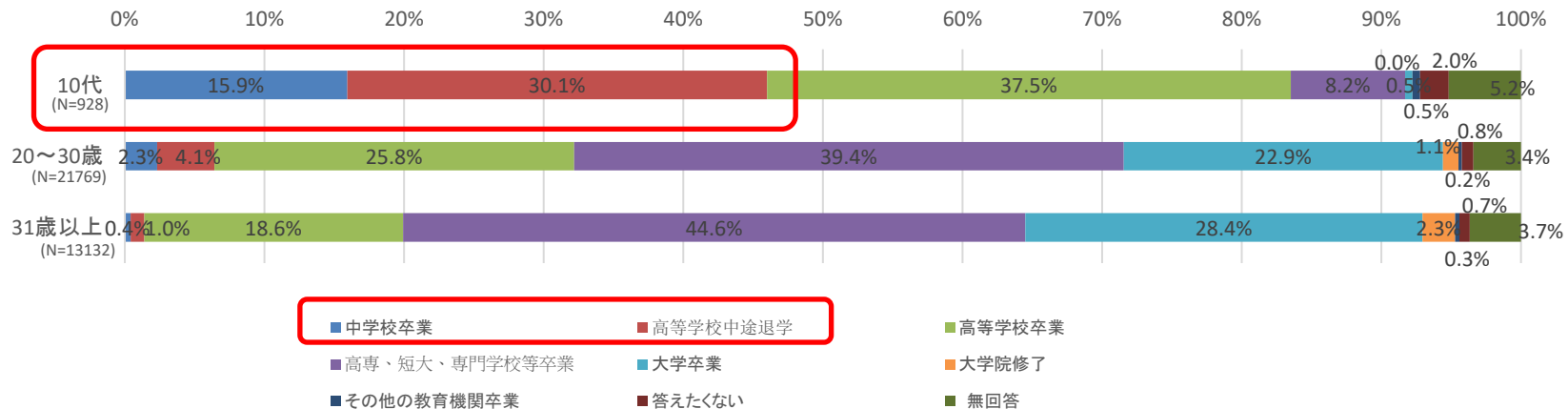
初めて親になった年齢×母親の最終学歴

H28



◇10代で親になった世帯では、最終学歴は中学校卒業や高等学校中途退学の割合は、約5割にのぼる。

R5



4. 子どものつながり

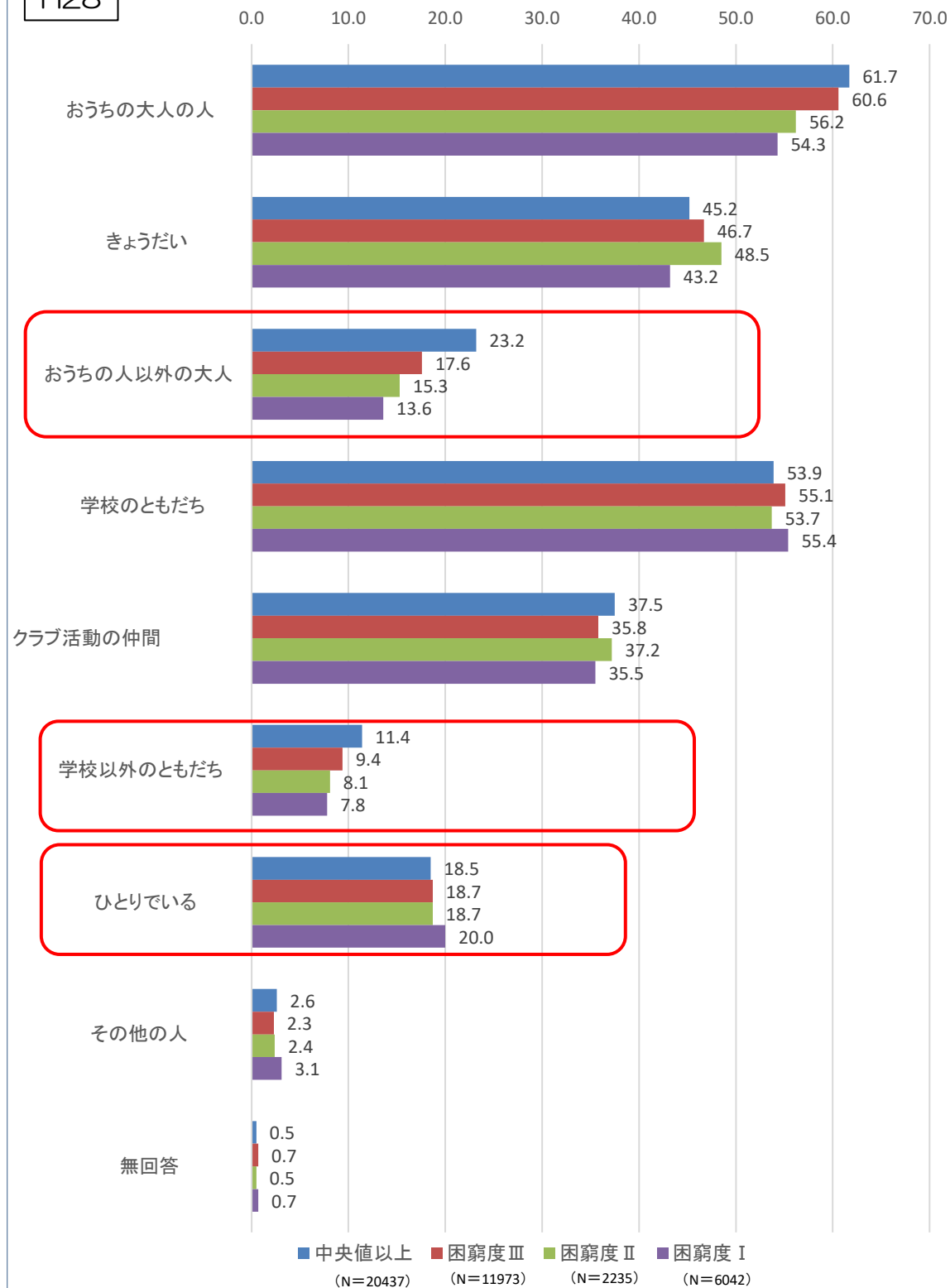
4. 子どものつながりに関すること

■ 調査結果から分かったこと

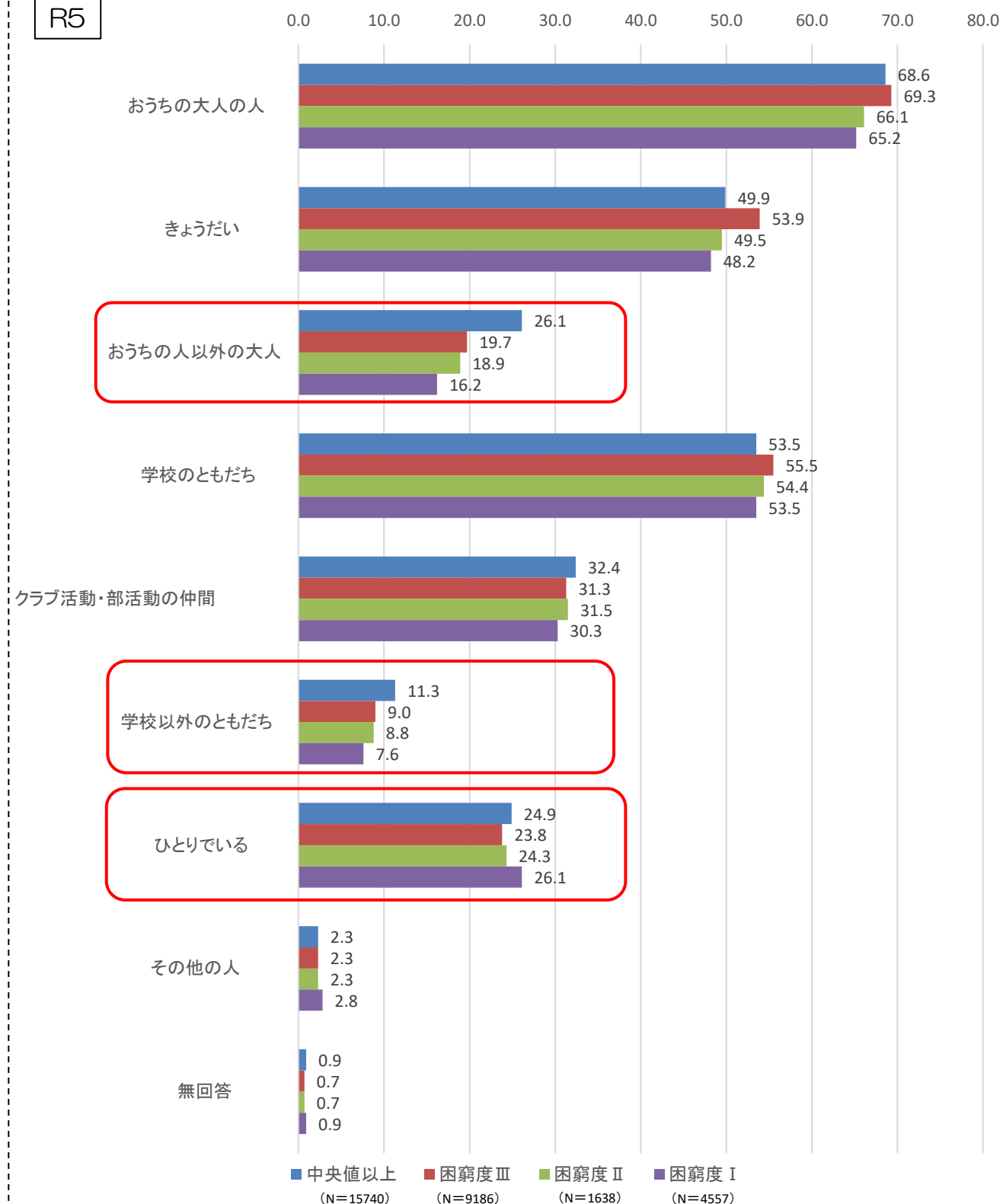
◇ 放課後ひとりである子どもについては、困窮度に関わらず約2割。
 困窮度が高いほど、おうち以外の大人や学校以外の友だちと過ごす割合は低い。

◇ 「ひとりである」子どもの割合は困窮度に関わらず、2割を超えている。
 「おうちの人以外の大人」や「学校以外のともだち」と過ごす割合は、困窮度が高いほど低くなっている。

H28

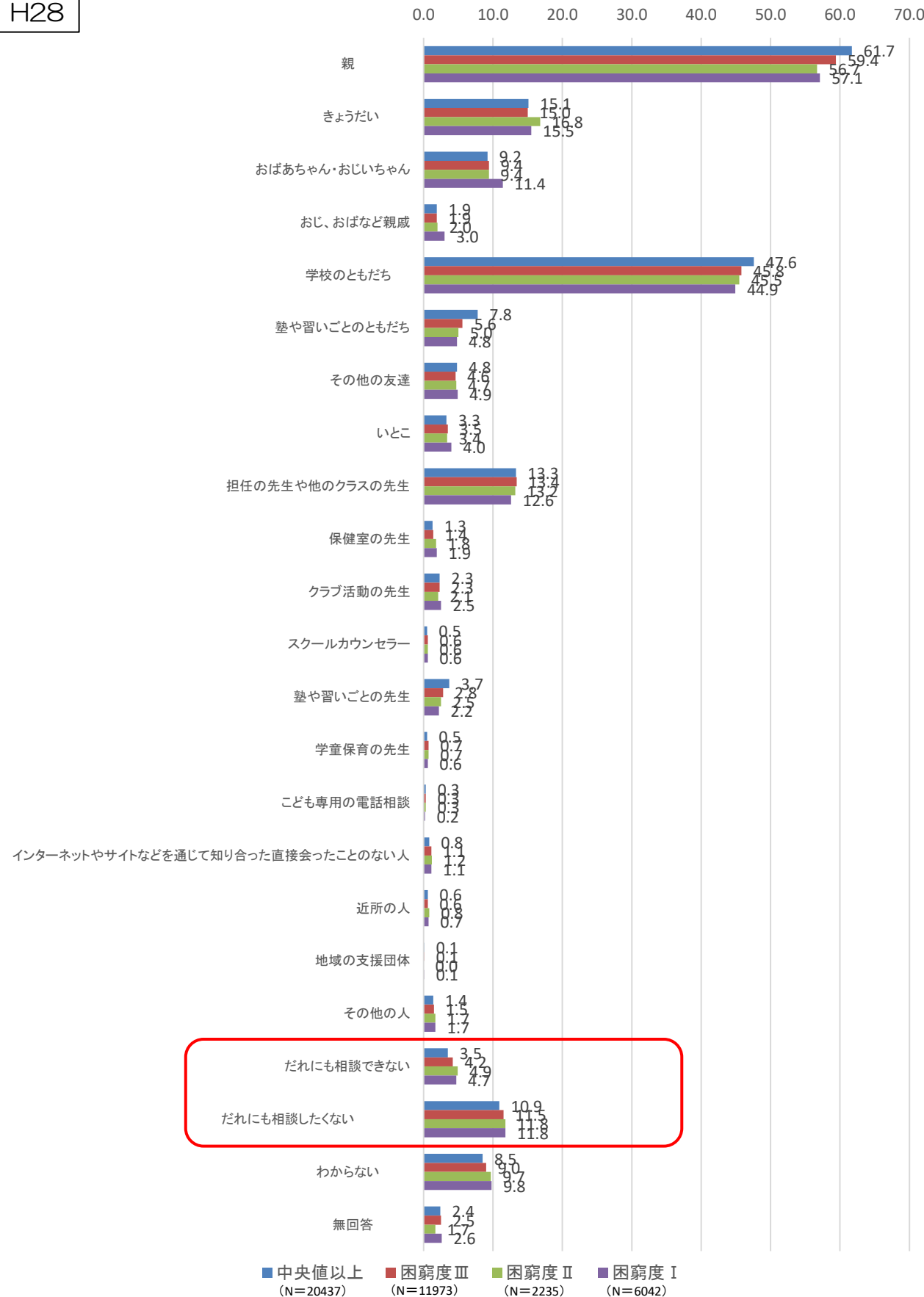


R5



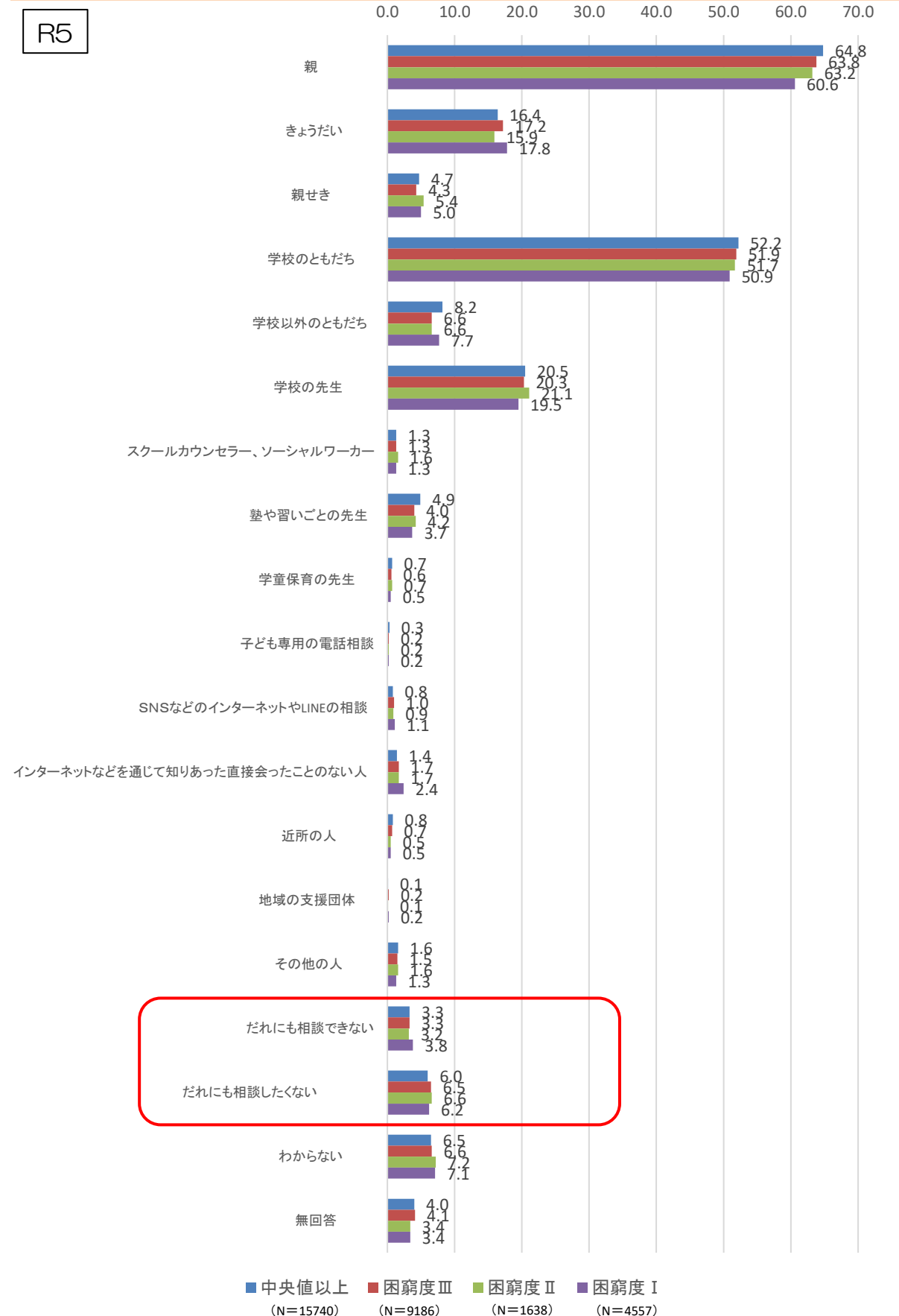
◇ 誰にも相談できない（したくない）は、困窮度との関連性が見られない。

H28



◇ 困窮度に関わらず、「誰にも相談したくない」は約6%、「誰にも相談できない」は約3%である。

R5

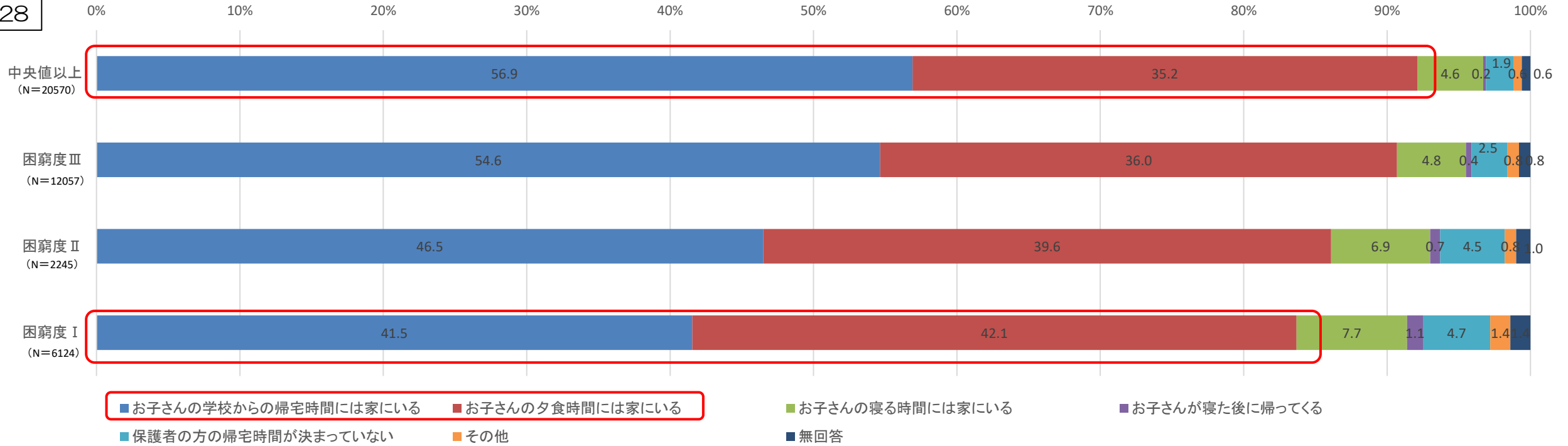


■調査結果から分かったこと

43市町村

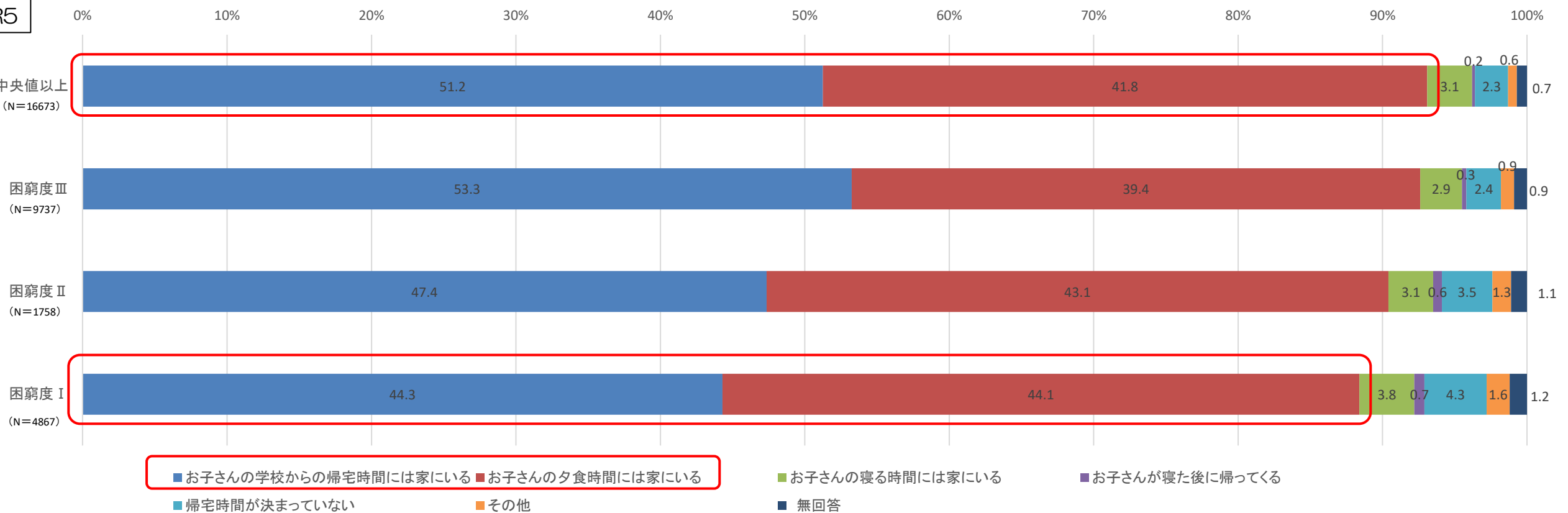
◇困窮世帯ほど保護者の家にいる時間について、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」「お子さんの夕食時間には家にいる」割合が少ない。

H28



◇困窮世帯と中央値以上の世帯において、大きな差は見られない。「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」「お子さんの夕食時間には家にいる」の割合は、困窮度Ⅰの世帯、中央値以上の世帯ともに約9割である。

R5

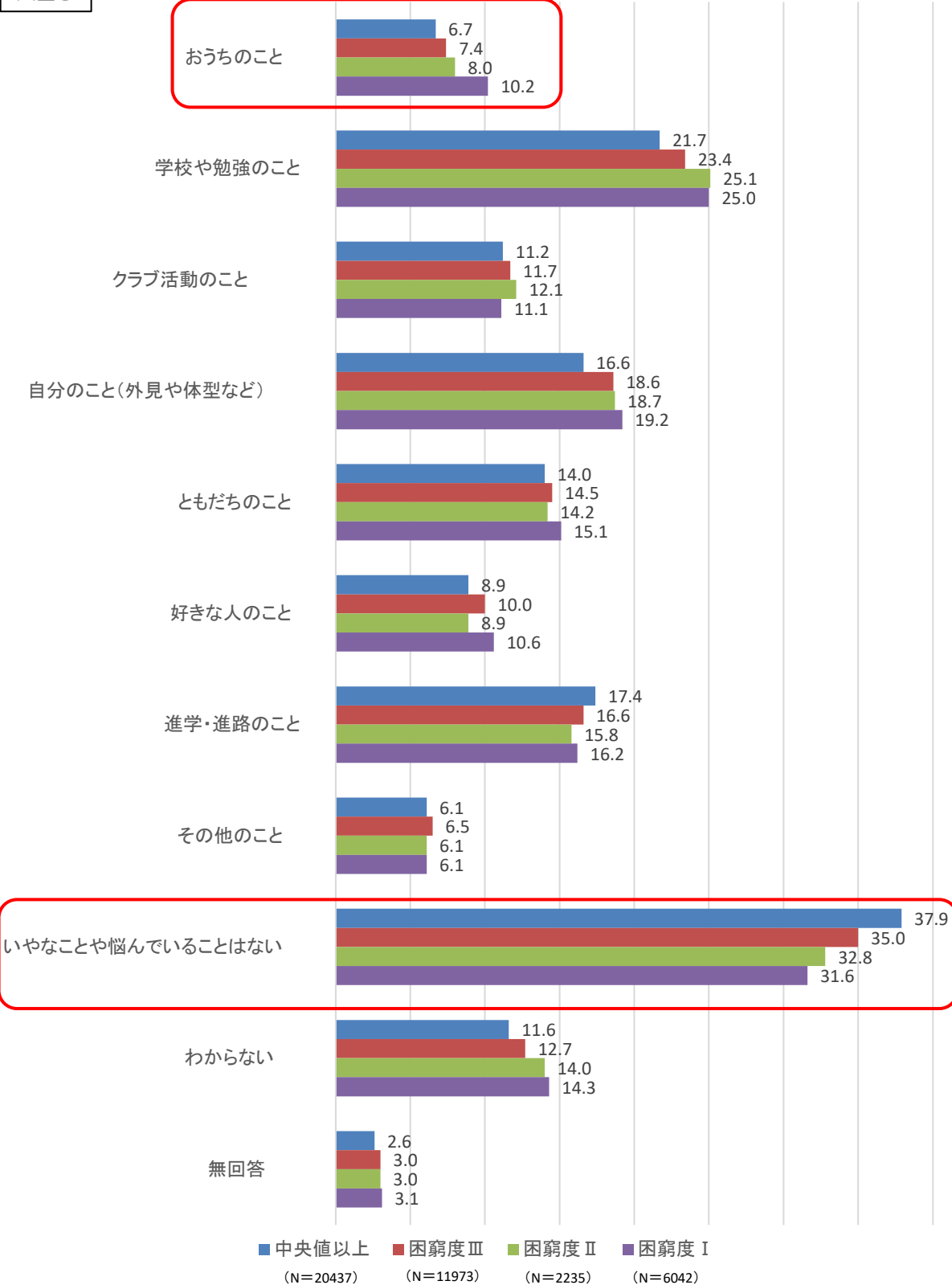


■調査結果から分かったこと

◇困窮度が高いほど「おうちのこと」で悩んでおり、「嫌なことや悩んでいることがない」の割合が少ない。
7割近くの子どもが何らかの悩みを持っている。

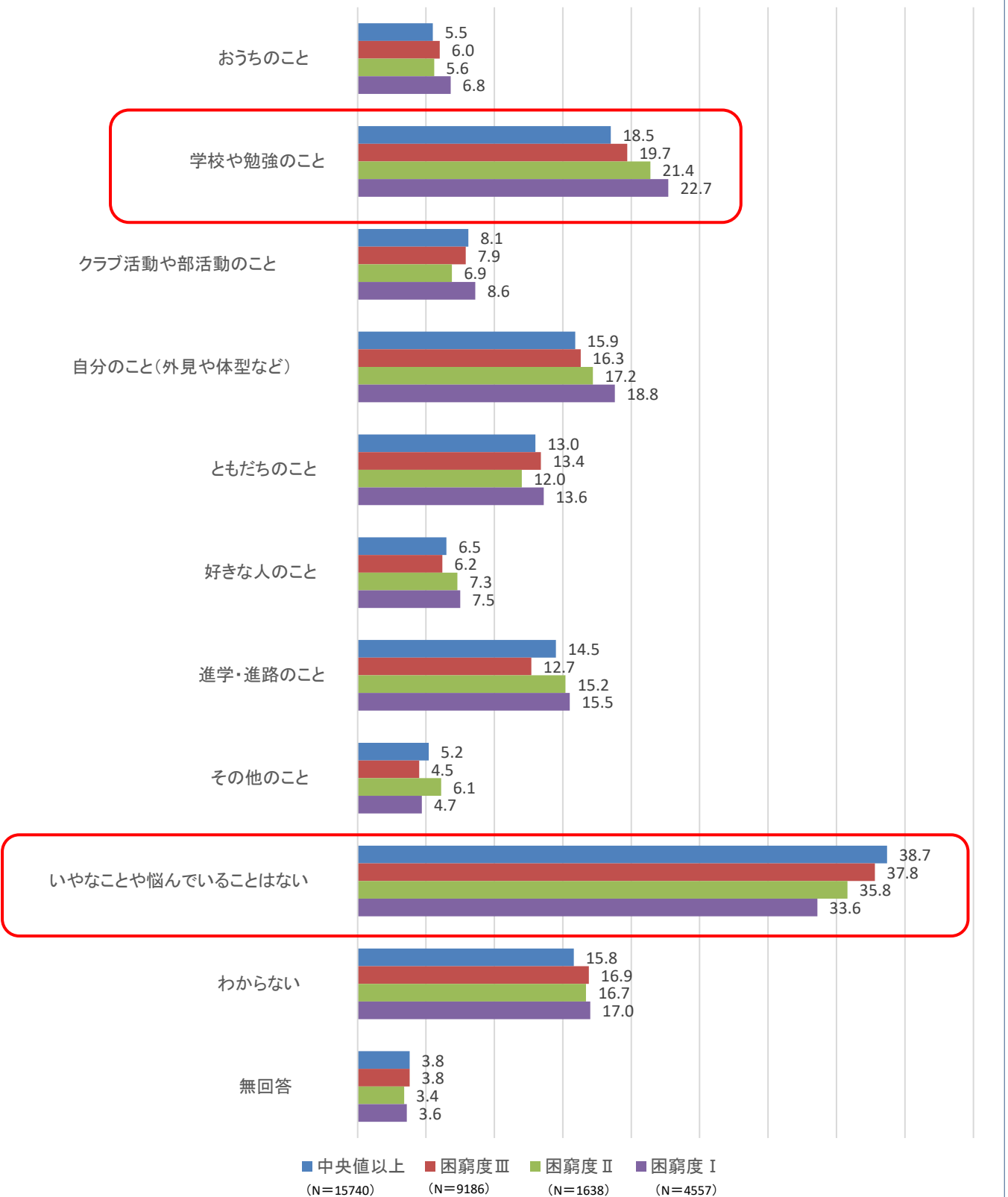
H28

0.0 5.0 10.0 15.0 20.0 25.0 30.0 35.0 40.0



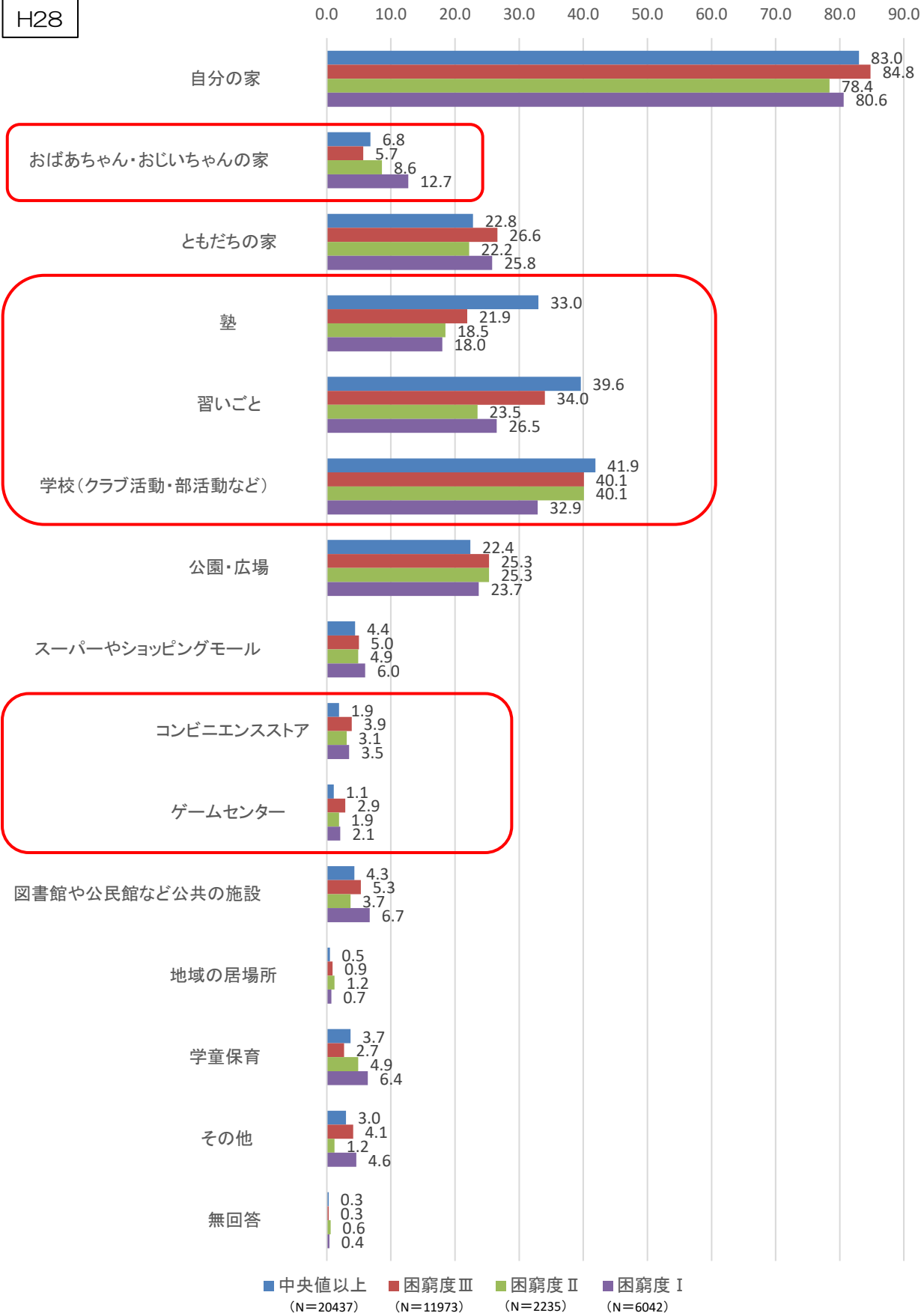
R5

0.0 5.0 10.0 15.0 20.0 25.0 30.0 35.0 40.0 45.0

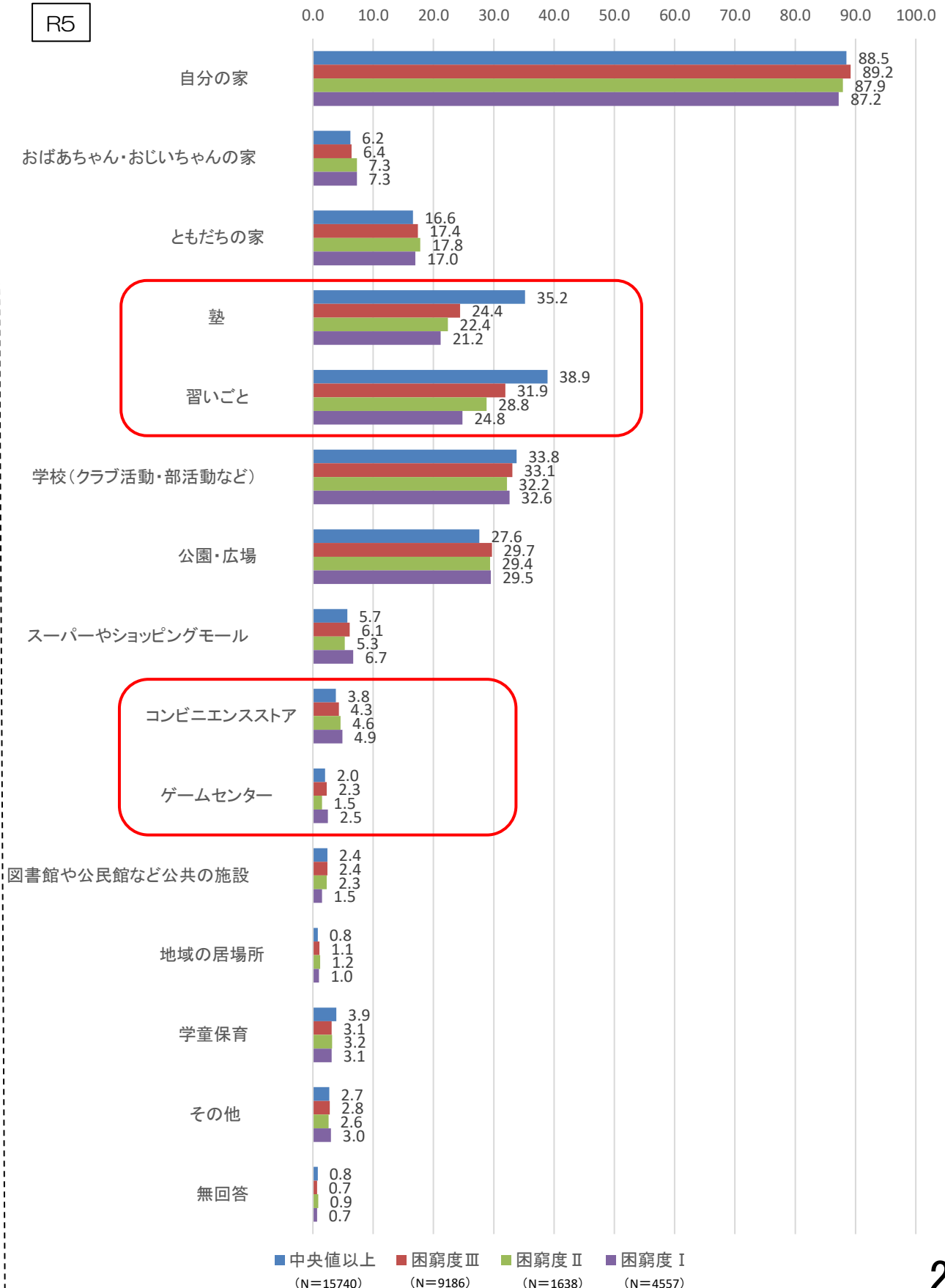


■調査結果から分かったこと

◇「おばあちゃん・おじいちゃんの家、コンビニエンスストア、ゲームセンター」において、困窮度Ⅰの世帯の割合が高い。
 ◇中央値以上群では「塾、習いごと、学校（クラブ活動等）」で過ごす割合が高い。



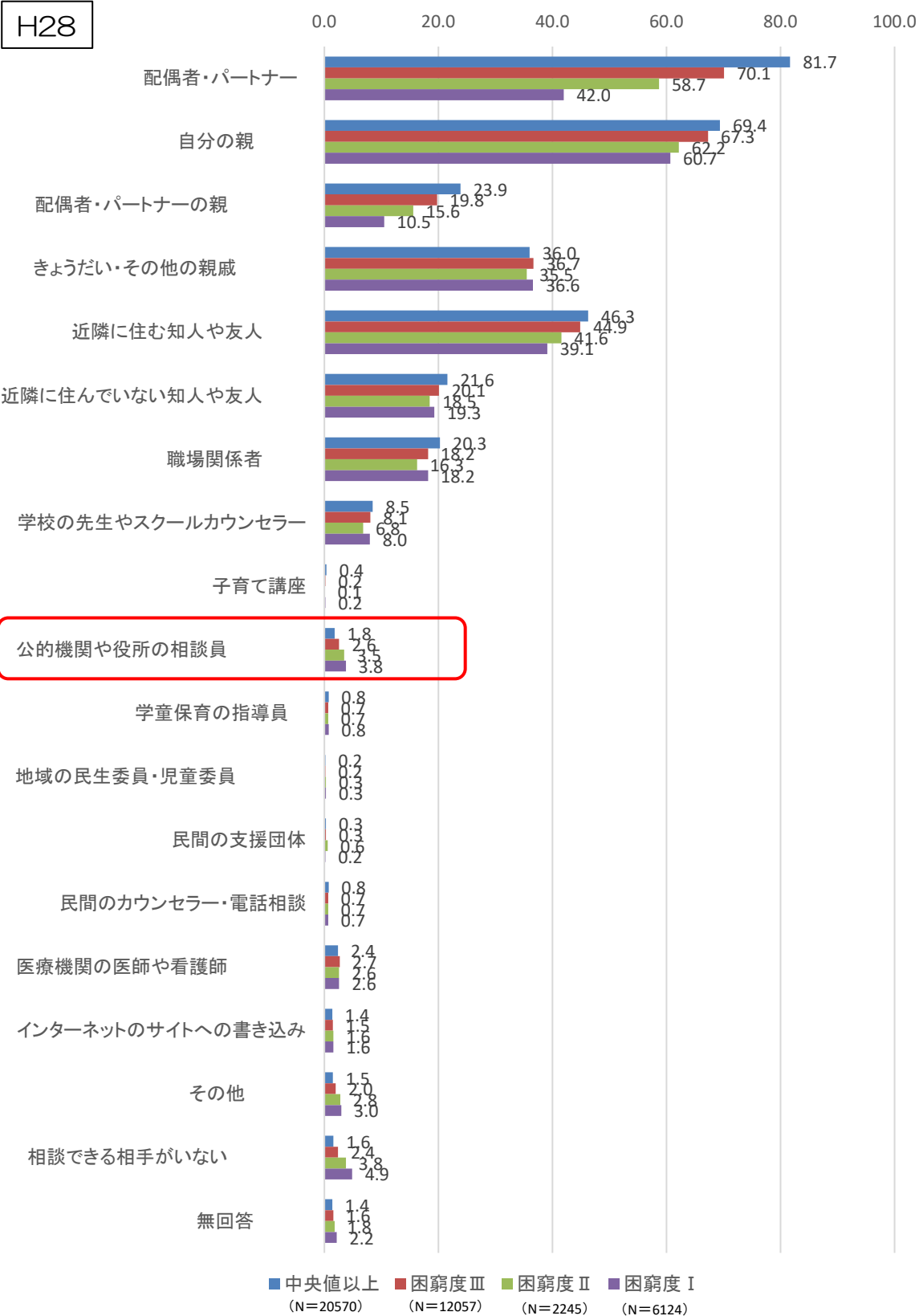
◇「塾、習いごと」の割合は、困窮度が高くなるにつれ、低くなっている。
 ◇「コンビニエンスストア、ゲームセンター」において、困窮度Ⅰと中央値以上の世帯における差は見られない。



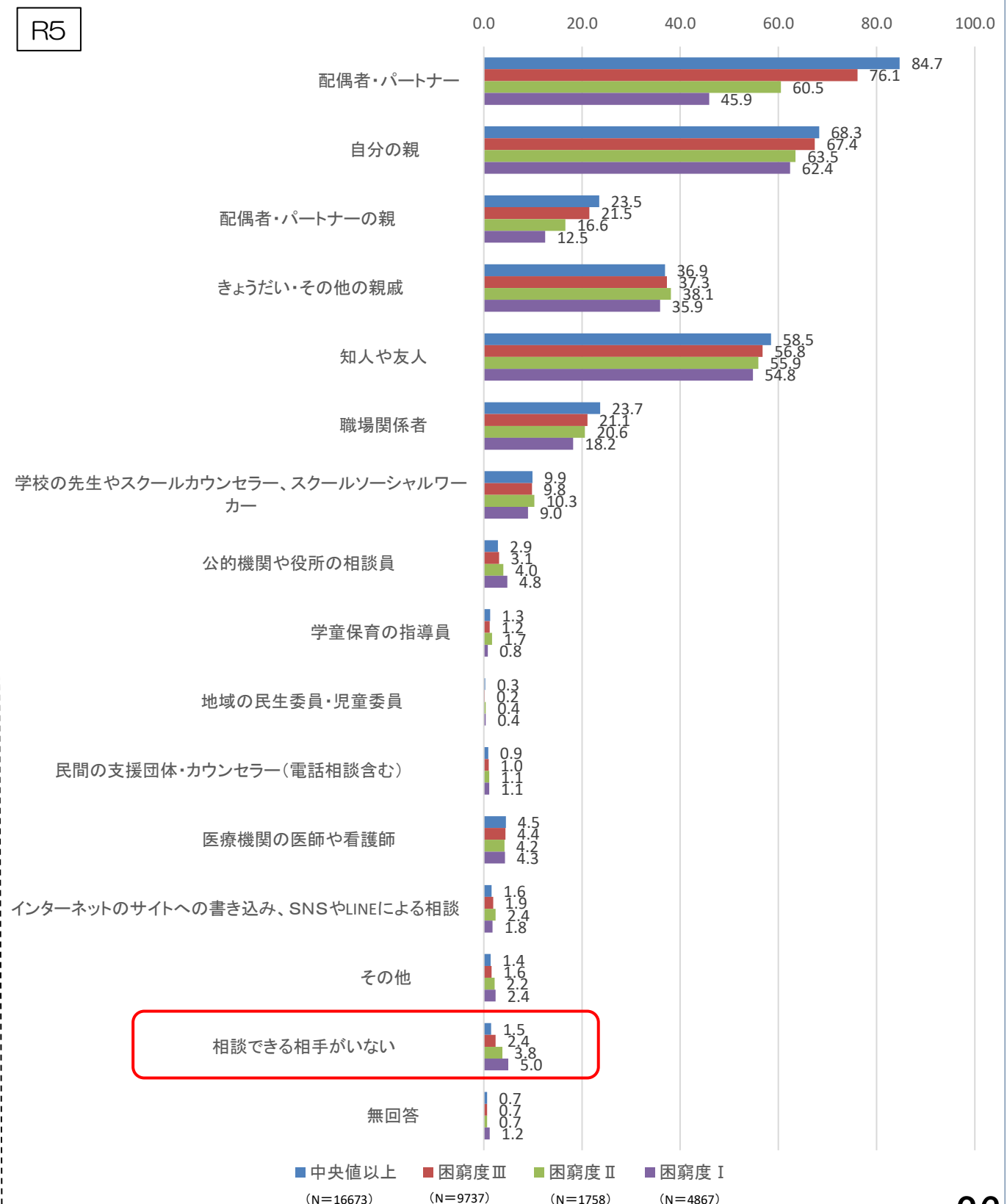
5. 親への相談支援

■調査結果から分かったこと

◇保護者の相談相手については、公的な機関への相談割合が低い。



◇困窮度が高くなるほど、「相談できる相手がいない」の割合が高い。

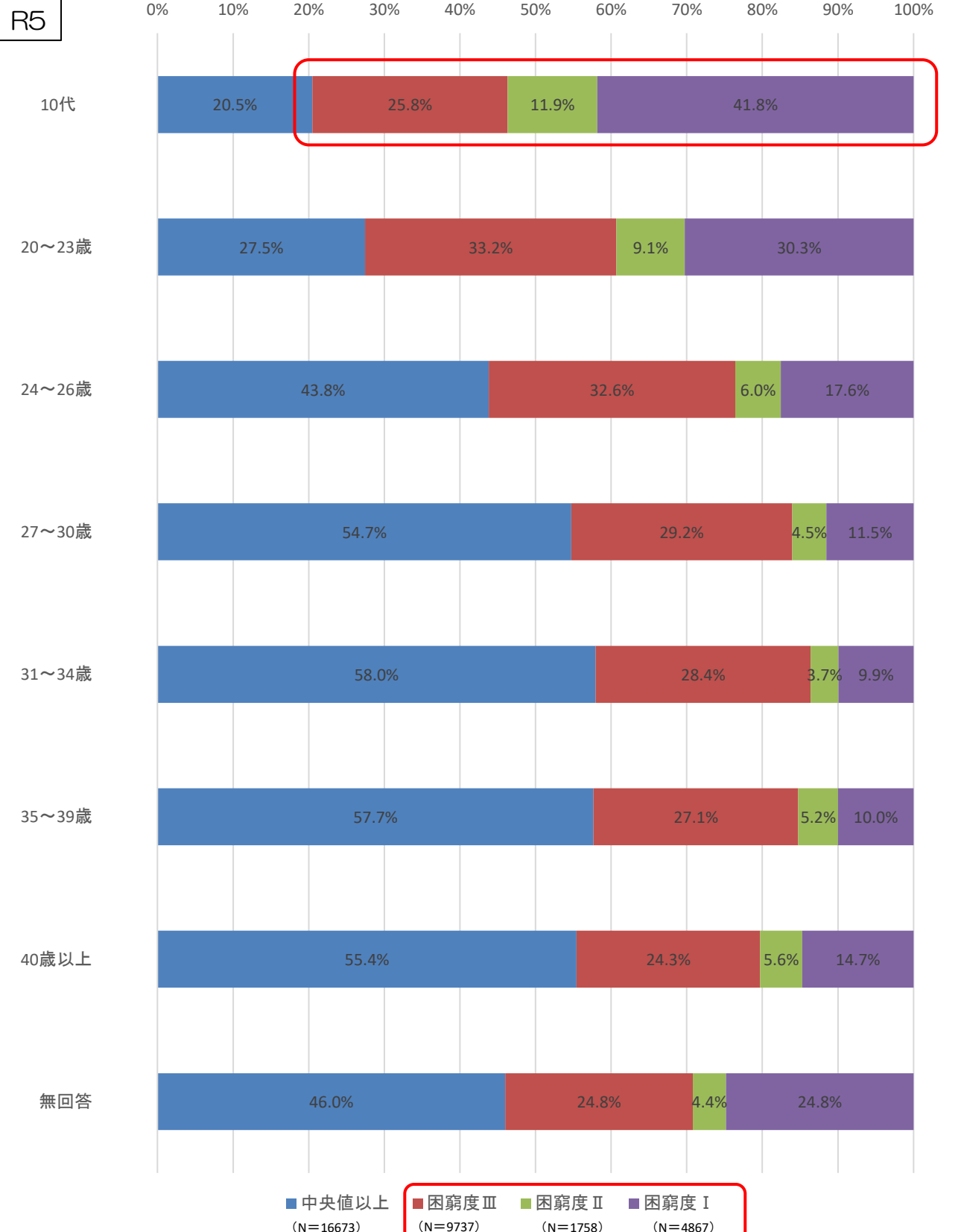
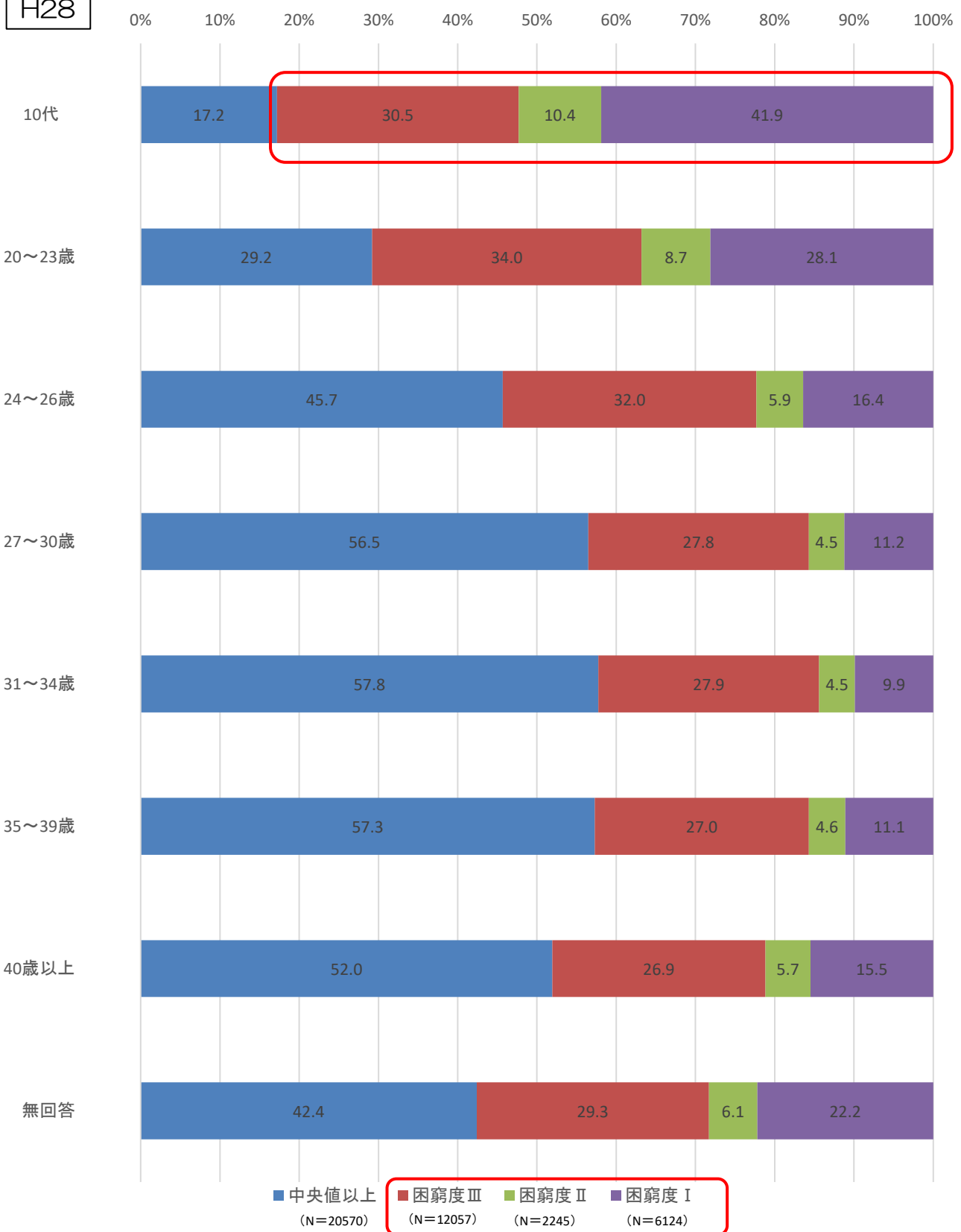


◇ はじめて親になったのが10代の場合、困窮度が高い層が8割を超える。

◇ 10代で初めて親となった人のうち、困窮世帯の割合は約8割である。

H28

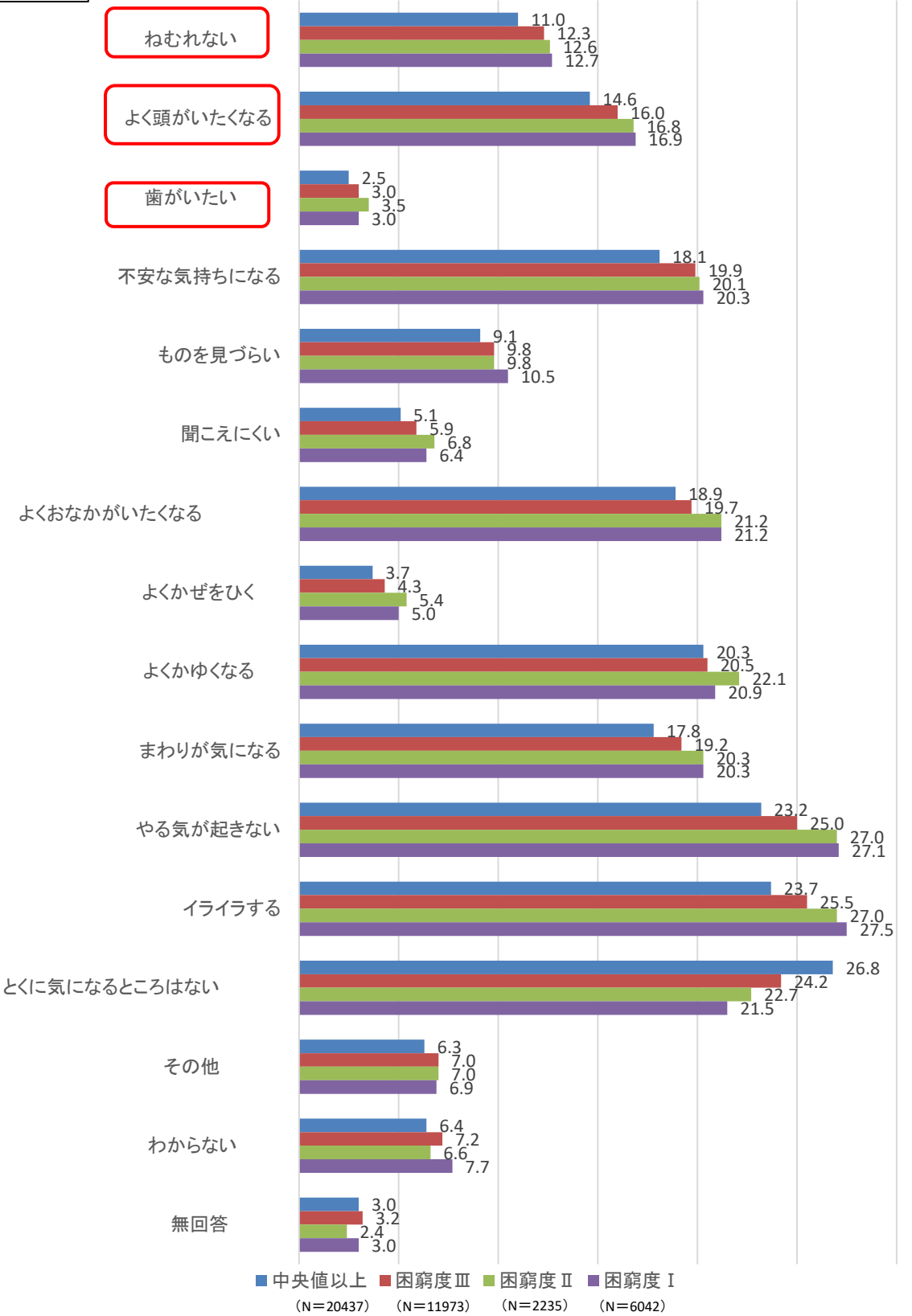
R5



■調査結果から分かったこと

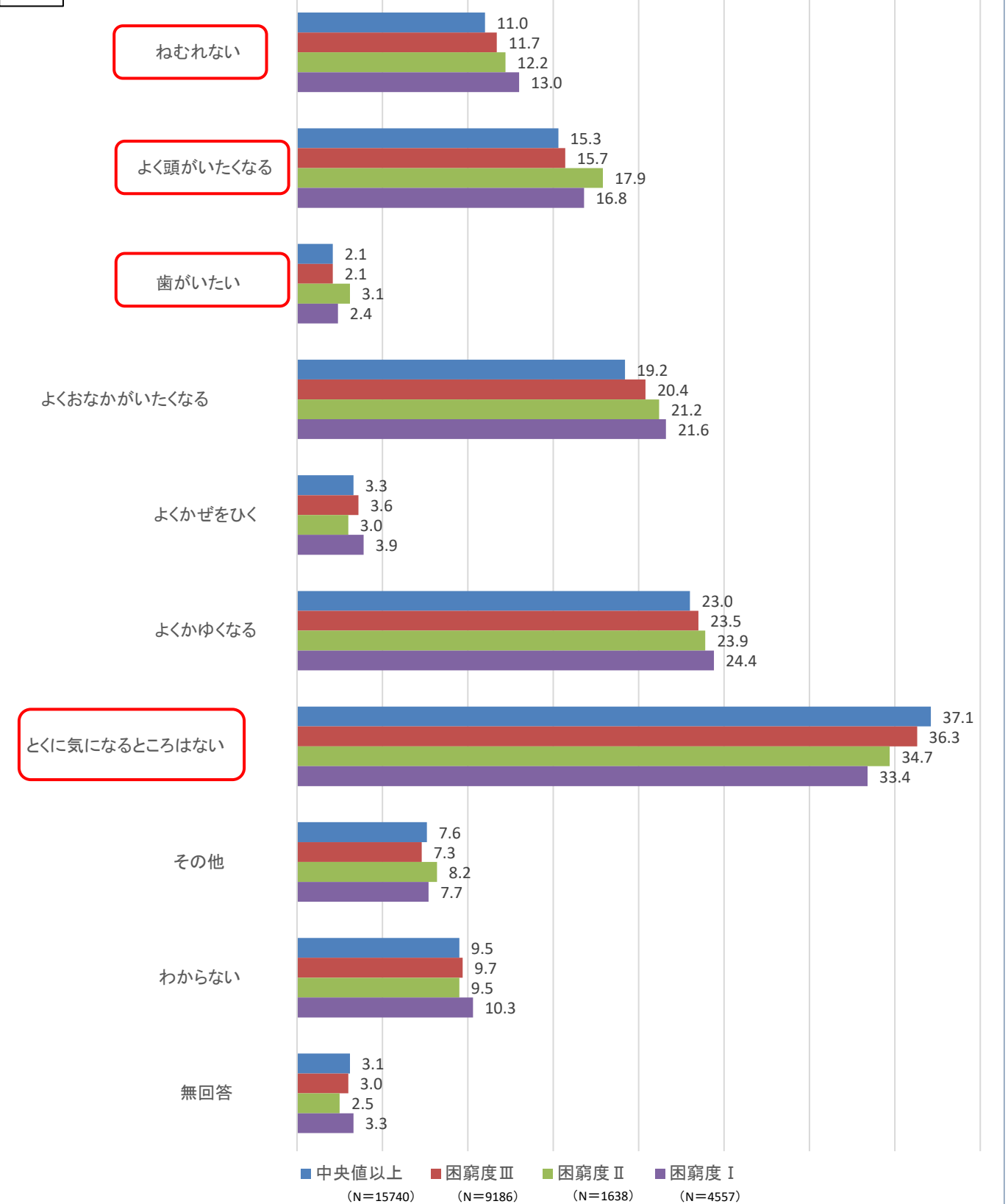
◇子どもの心身で気になることについては、困窮世帯ほど割合が高い傾向にある。

H28



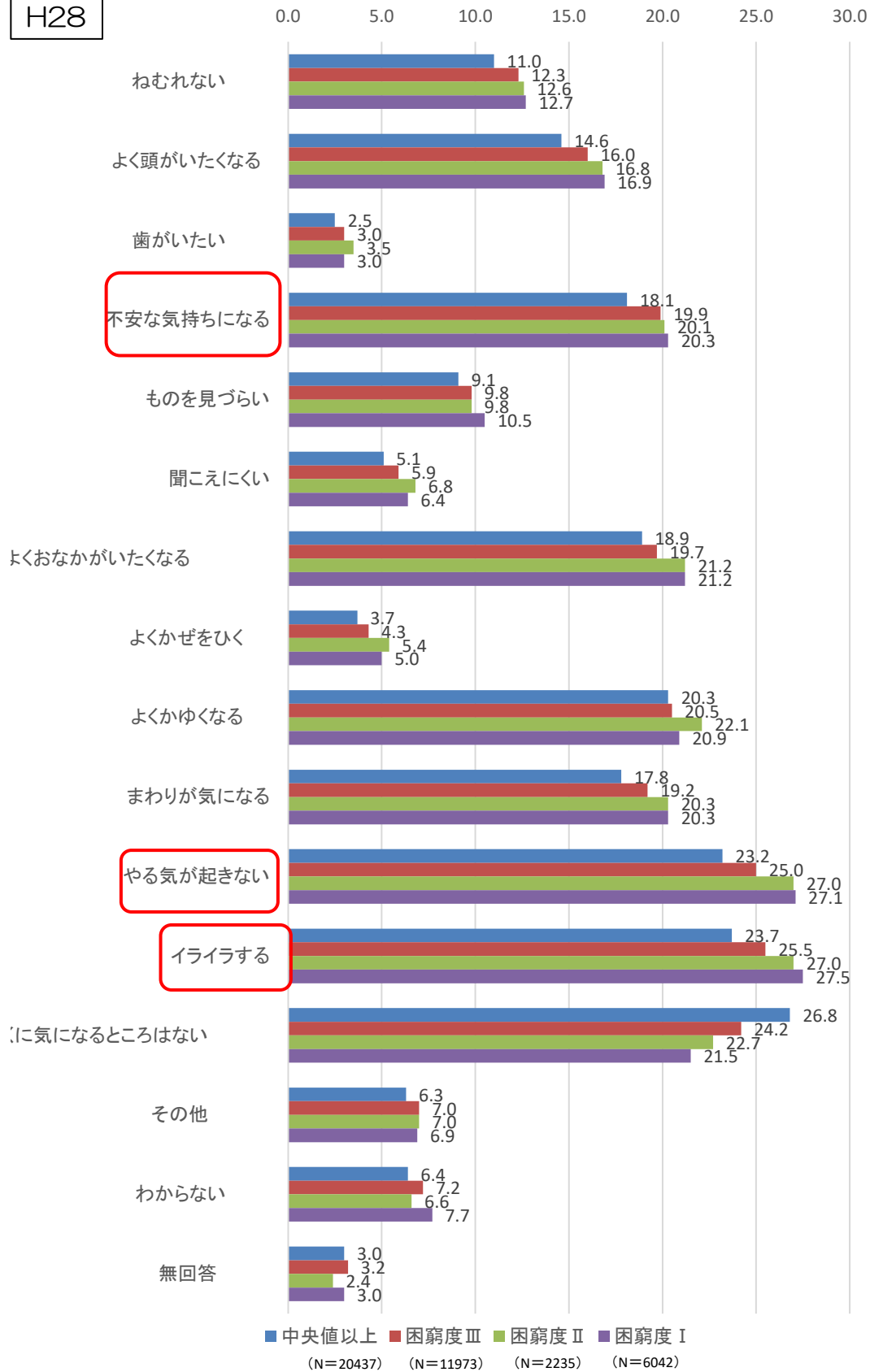
◇困窮世帯ほど気になるところがある割合が高くなっている。

R5



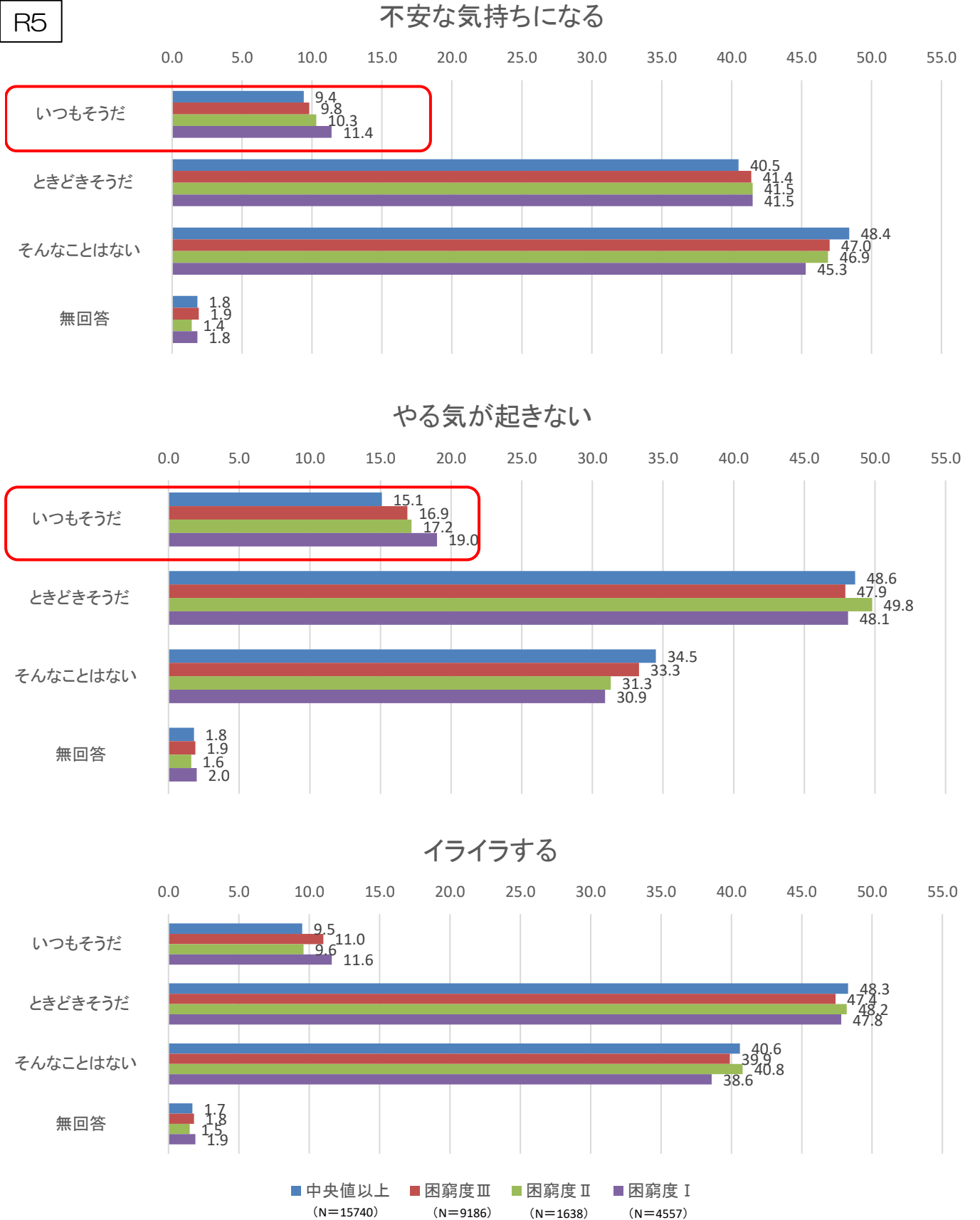
◇子どもの心身で気になることについては、困窮世帯ほど割合が高い傾向にある。

H28



◇困窮度が高くなるほど、「不安な気持ちになる」、「やる気がおきない」について「いつもそうだ」と回答した子どもの割合が高くなっている。

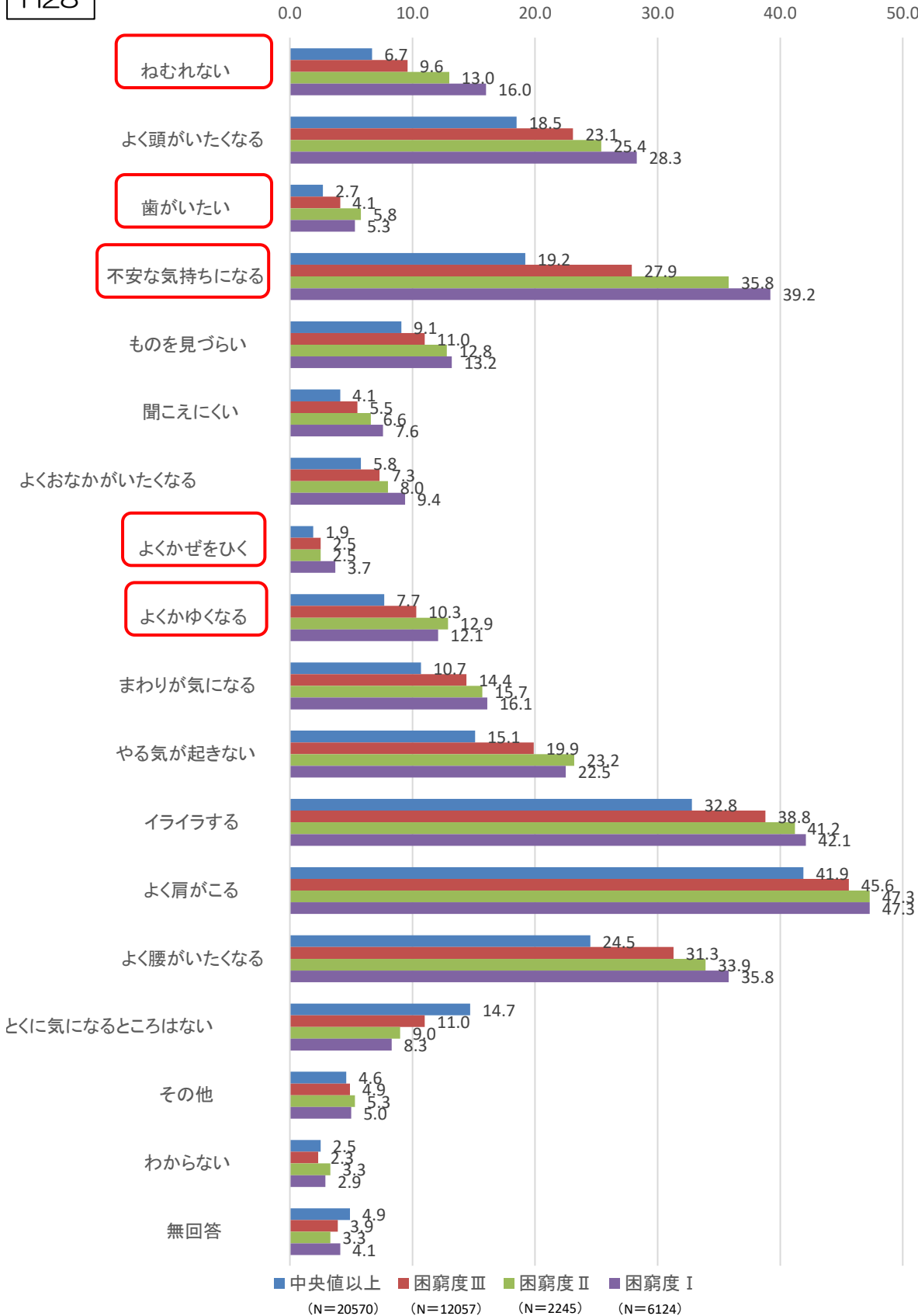
R5



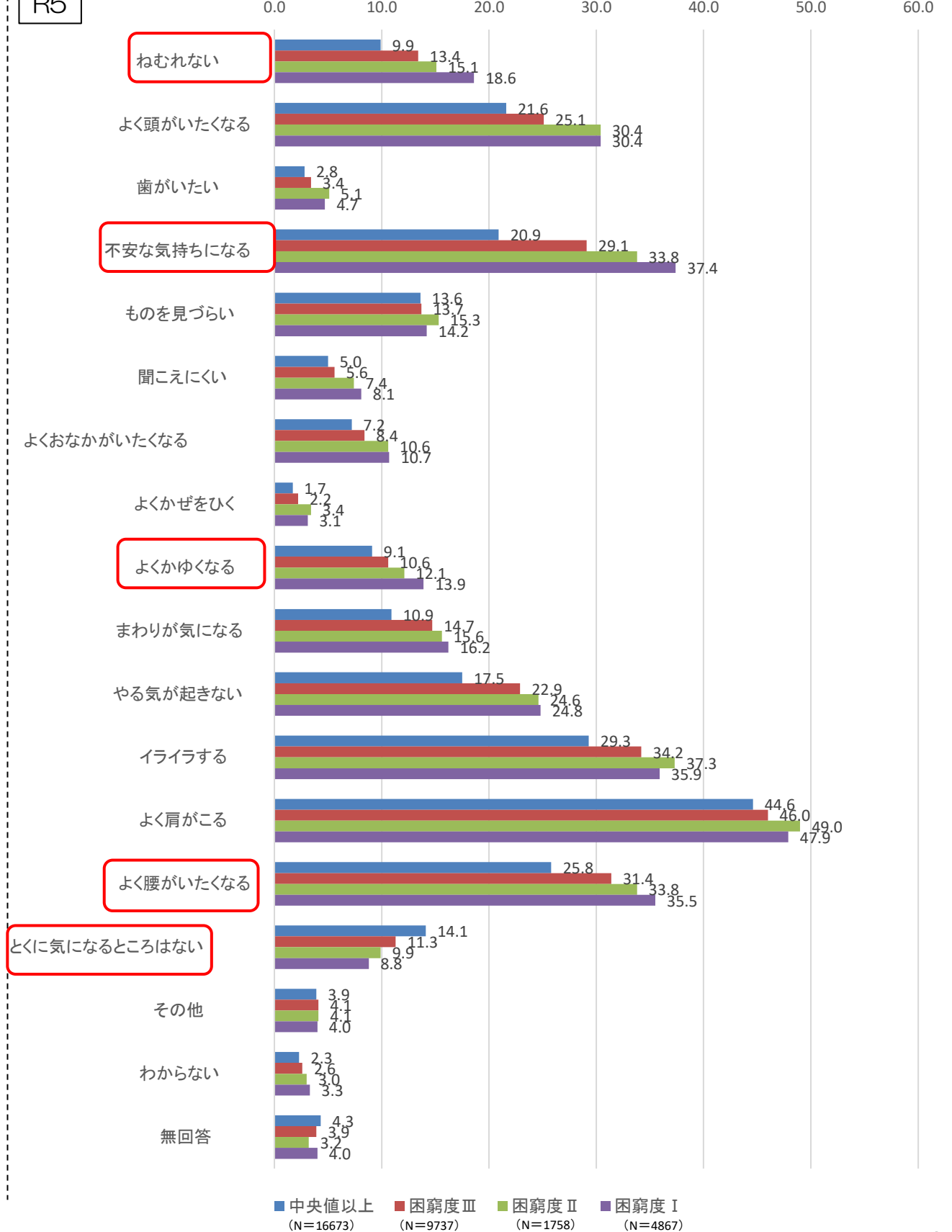
◇保護者の心身で気になることについては、困窮世帯ほど割合が高い傾向にある。

◇困窮世帯ほど心身で気になるところがあると回答した割合が高くなっている。

H28



R5



6. 居場所の利用状況

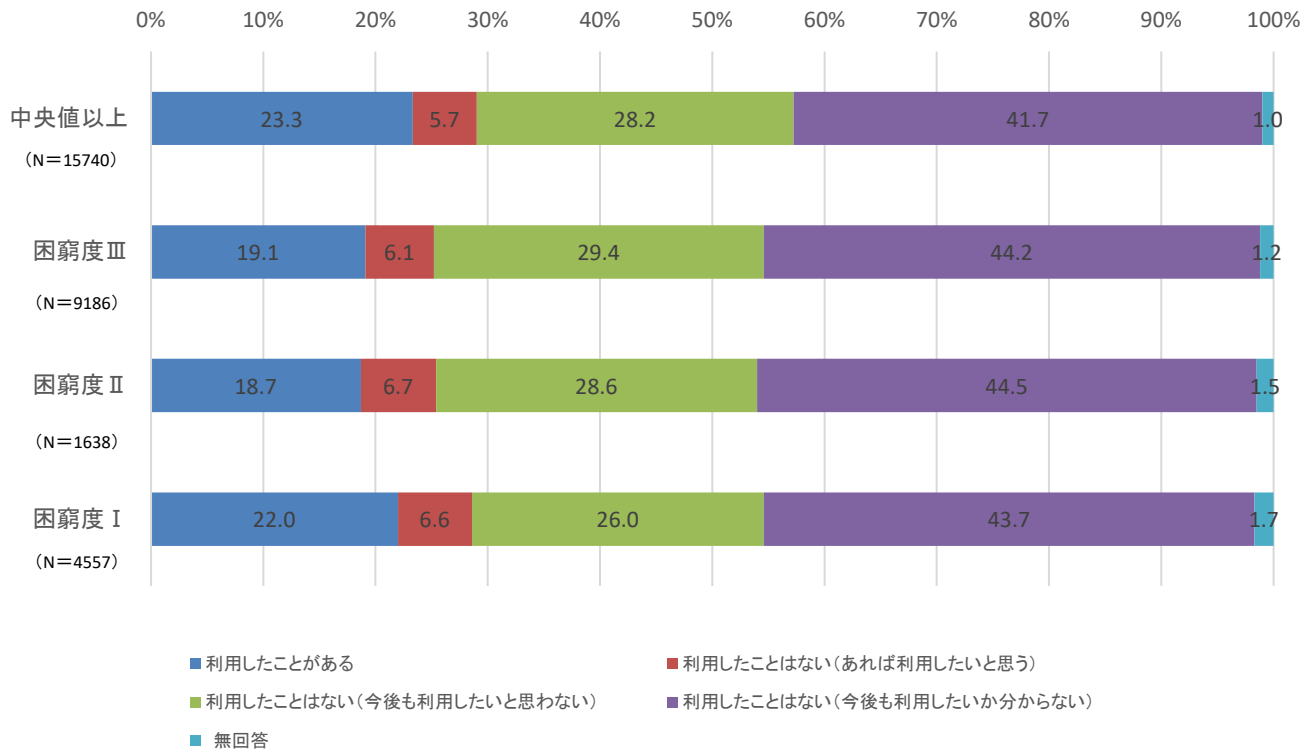
6. 子どもの居場所に関すること

■ 調査結果から分かったこと

◇ 「昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所」や「勉強を無料か安い料金でみてくれる場所」は、利用したことがある世帯は約1割である。「何でも相談できる場所」を利用したことがある世帯は、いずれの世帯においても5%を切っている。

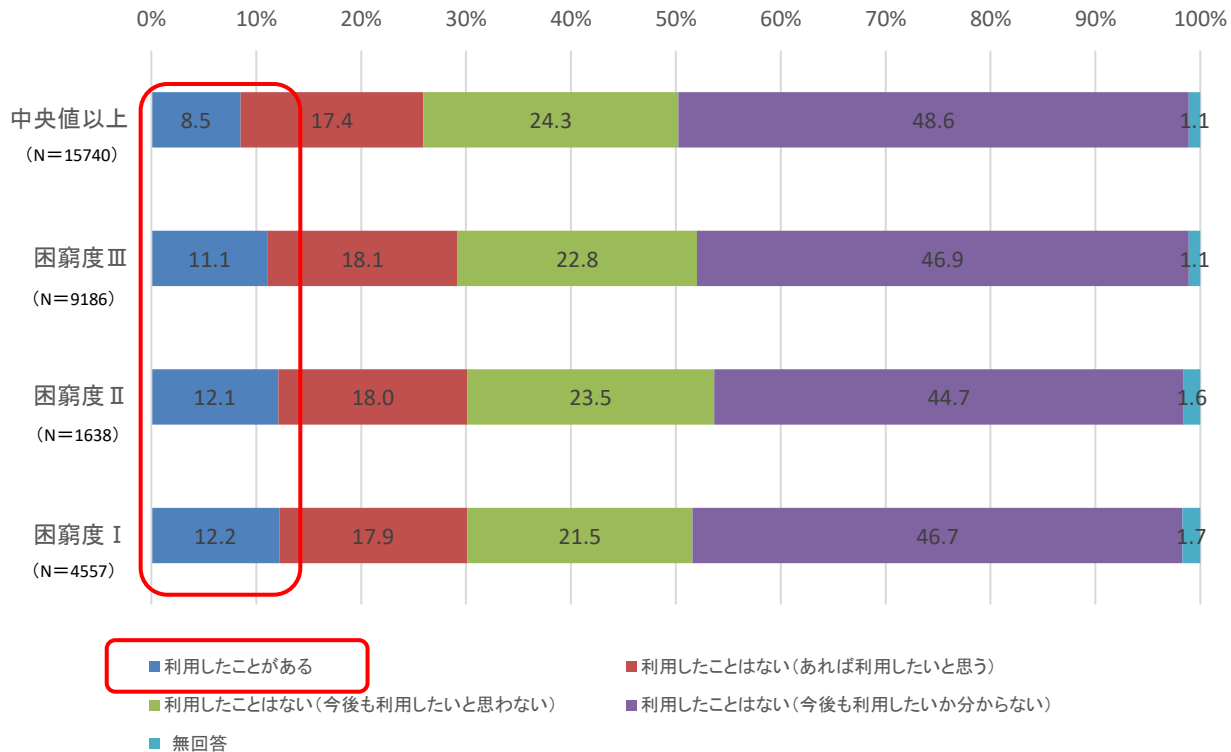
R5

(平日の夜や休日に過ごせる場所)



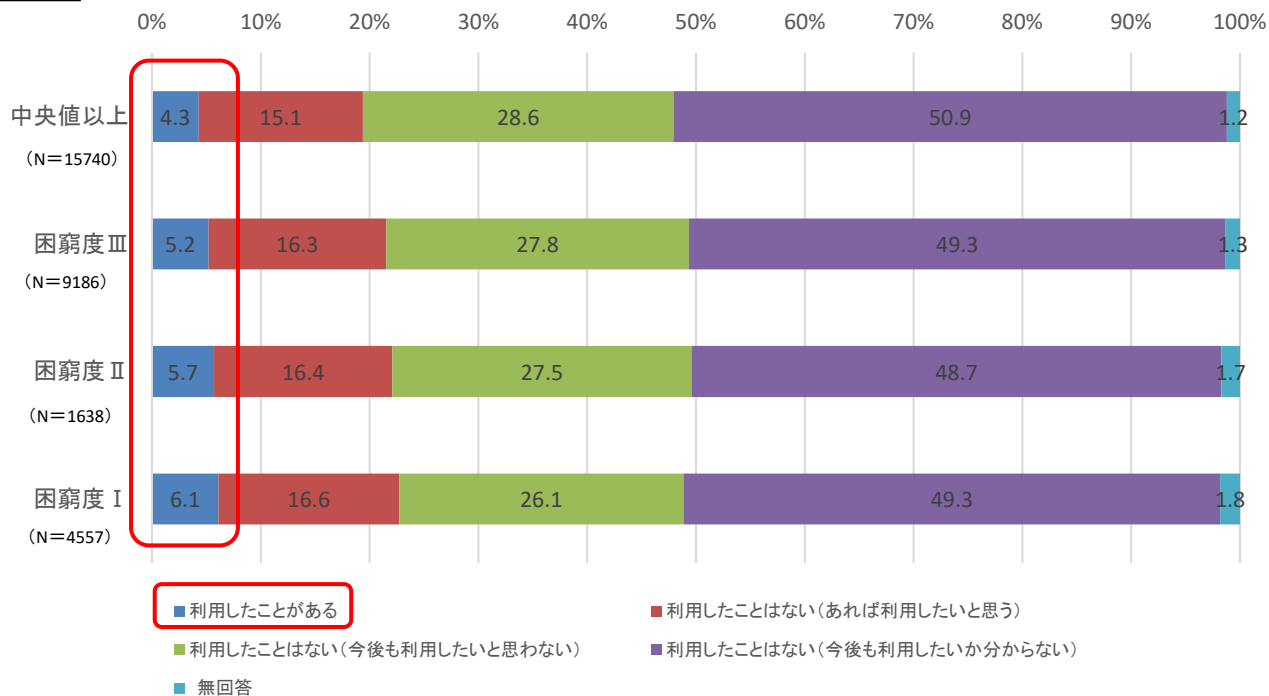
R5

昼食等を無料か安い料金で食べることができる場所



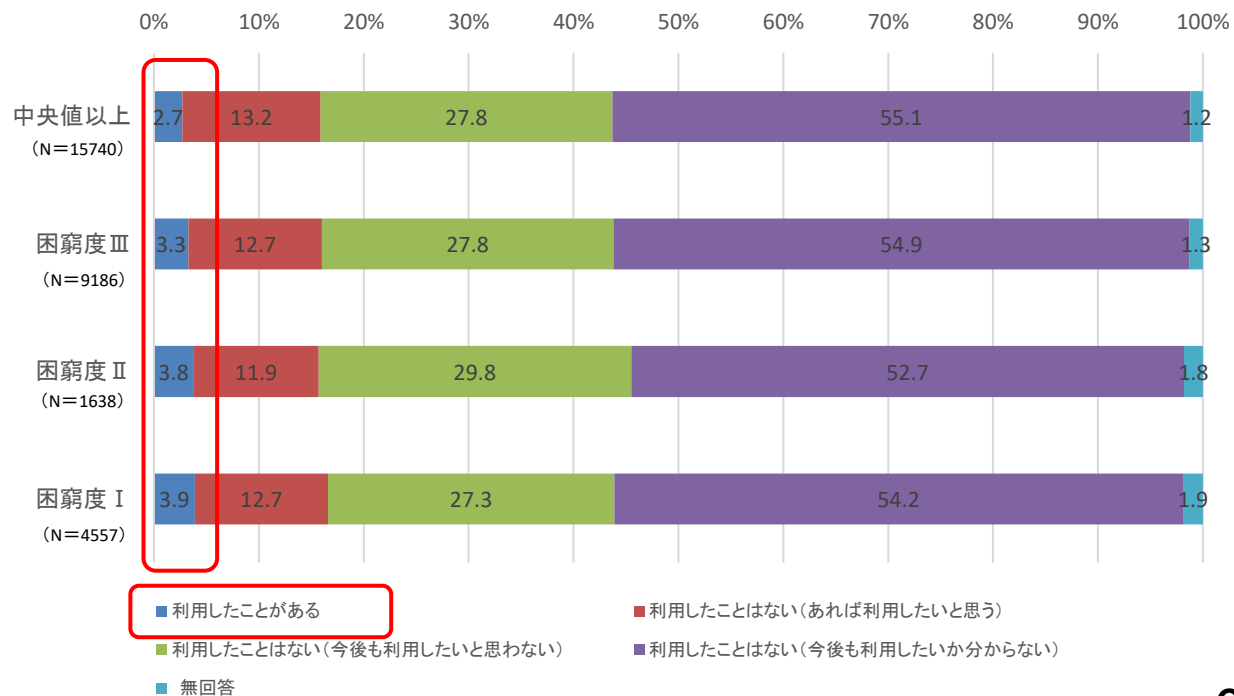
R5

勉強を無料か安い料金で見てくれる場所

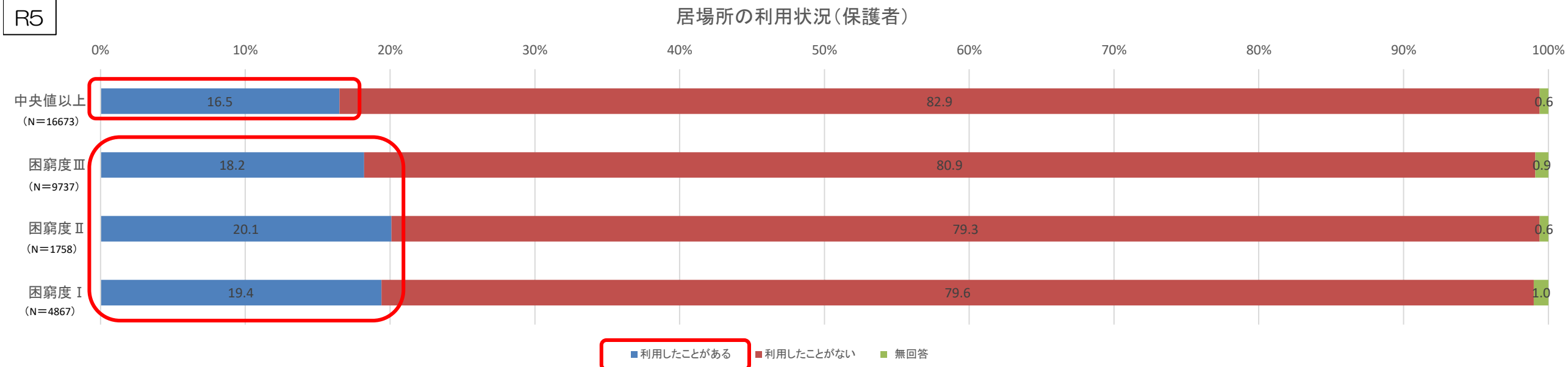


R5

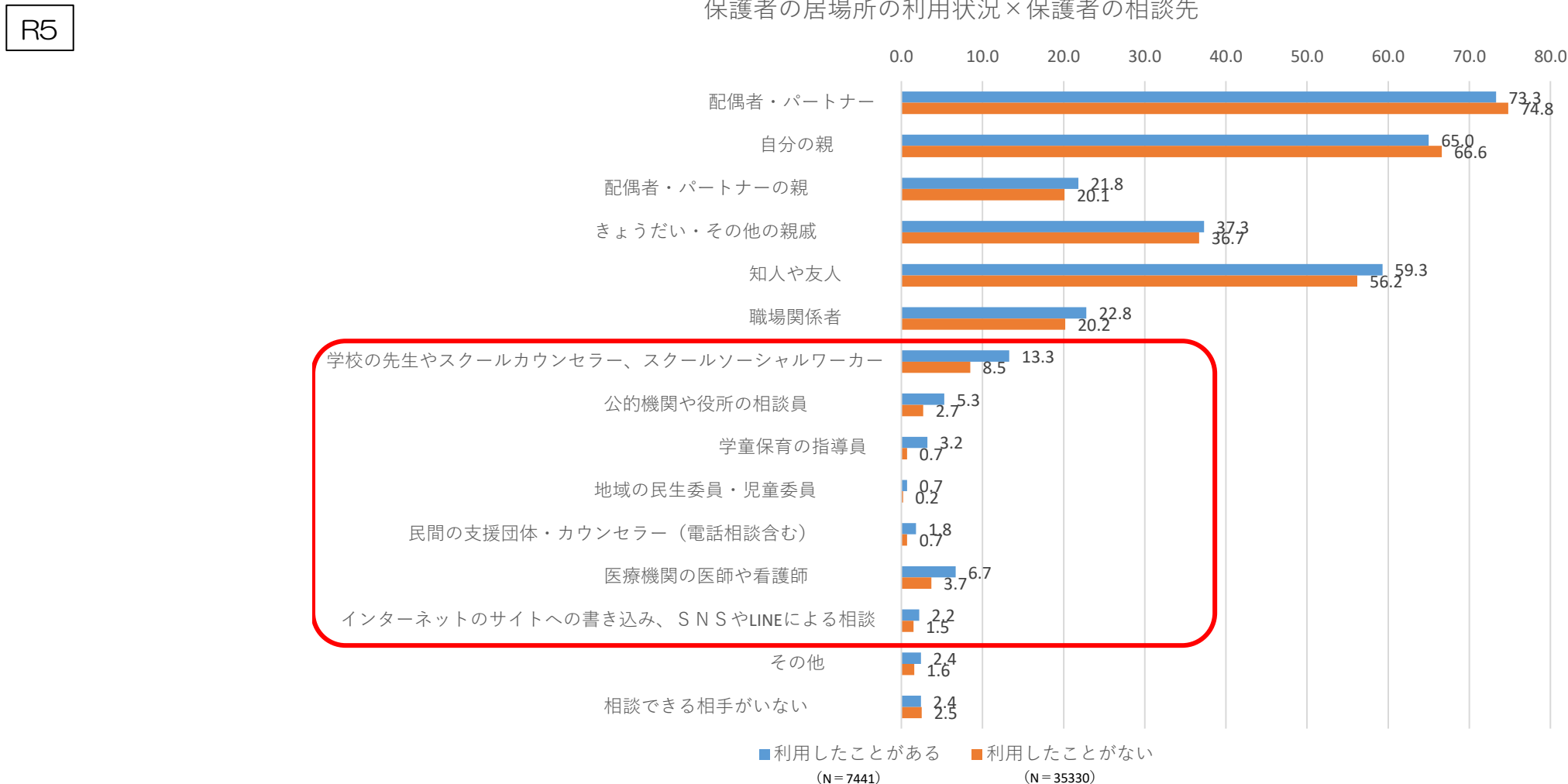
何でも相談できる場所



◇困窮世帯において、居場所を利用したことがある割合は中央値以上の世帯に比べて若干高いが、大きな差はみられない



◇居場所を利用したことがあると回答した人のほうが、外部の相談機関へ相談する割合が高い。

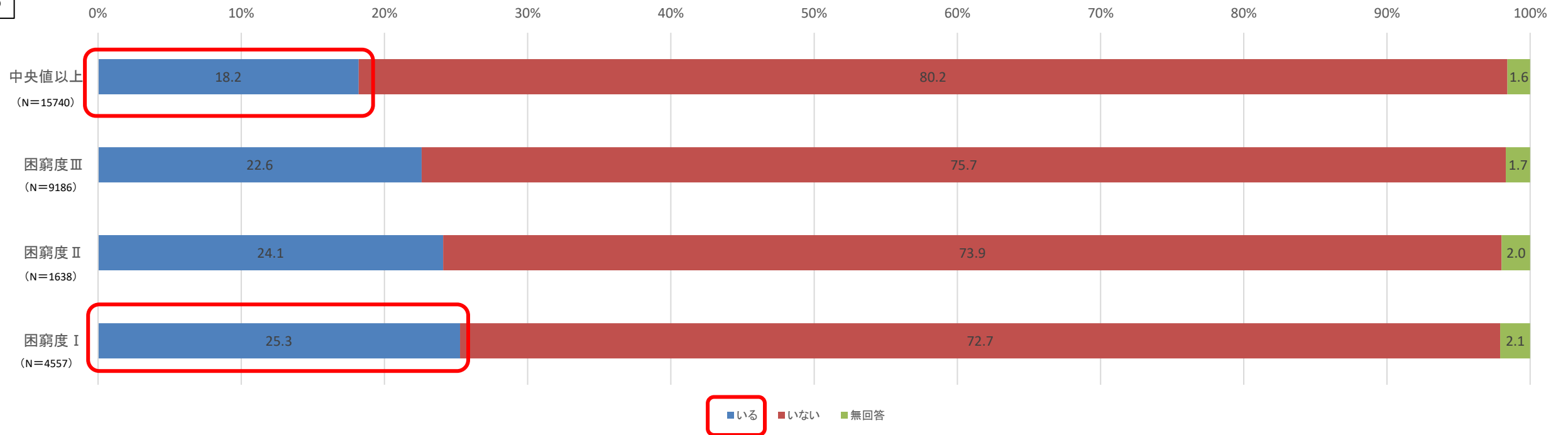


7. お世話の状況

◇困窮度が高いほど、お世話をしている人がいると回答した子どもの割合が高い。

R5

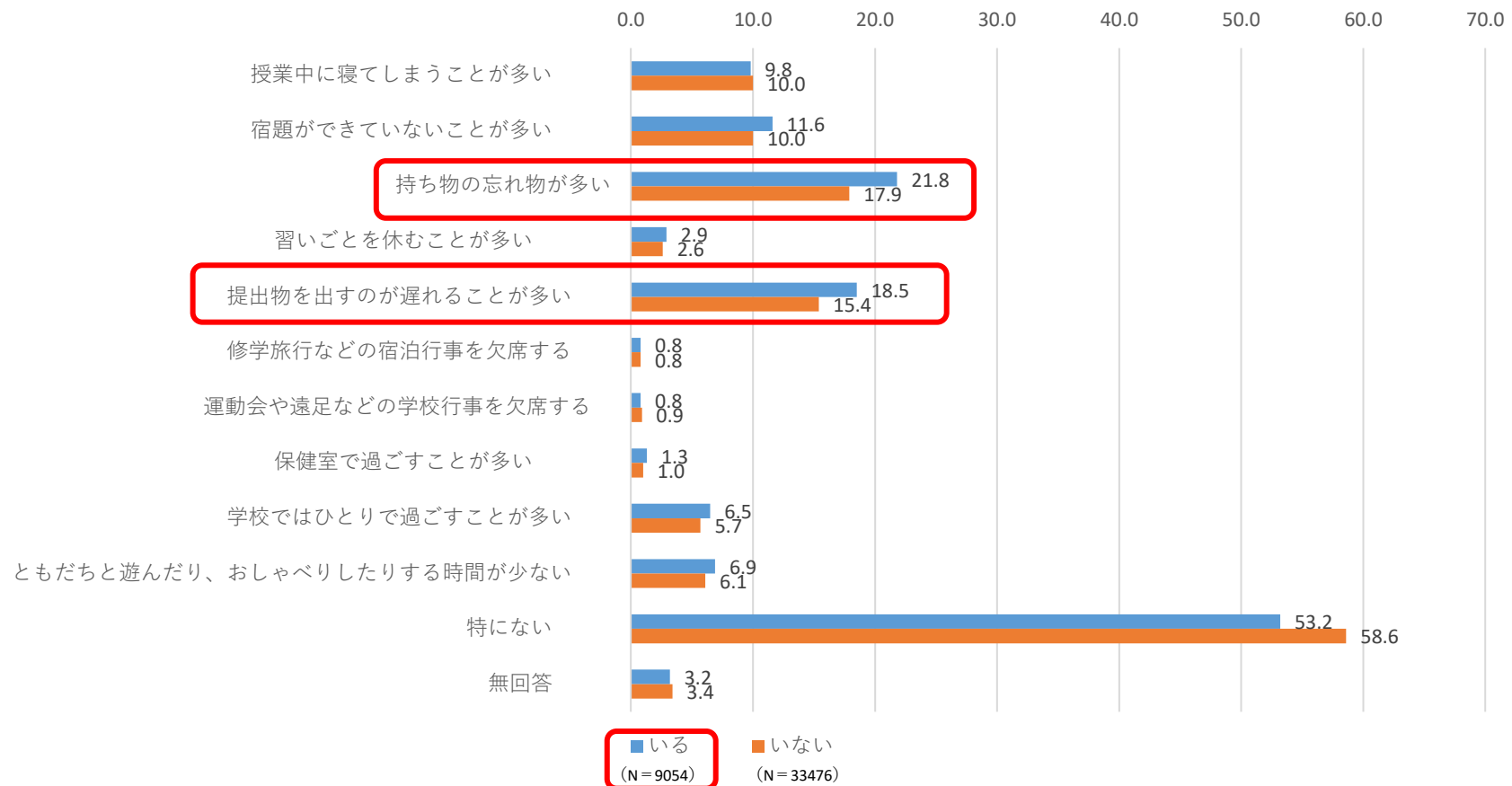
お世話している人の有無



◇お世話している人がいる子どものほうが、持ち物の忘れ物が多い、提出物を出すのが遅れることが多いと回答した割合が高い。

R5

お世話している人の有無×学校の行事等の状況



◇お世話している人がいる子どものほうが居場所を利用している割合が多い。
 また、「利用したことはないが、あれば利用したい」と回答した割合が、お世話をしている人がいると回答した子どものほうが高い。

